

2019 年度（令和元年度） 豊中市立環境交流センター 事業報告書

特定非営利活動法人

とよなか市民環境会議アジェンダ 21

＜目次＞

1. 全体のまとめ	2
2. 施設の維持管理・運営体制	3
3. 管理運営業務の実施状況	9
(1) 地球環境の保全等に関する活動のための交流の場の提供	9
(2) 地球環境の保全等に関する情報の収集及び提供	2 3
(3) 地球環境の保全等に関する講座等の開催及び啓発の実施	3 1
(4) 地球環境の保全等に関する会議、研修、催し等へのセンターの施設の提供	4 6
(5) その他	4 8
4. 施設の利用状況	5 2
5. 指定管理業務に係る経費の収支状況	5 6
6. 自主事業の実施状況	5 8
7. 自主事業の経費の収支状況	6 0

【報告書内の表記について】

- ・参加者数に当団体の職員は含んでいません（注釈のある場合を除く）。
- ・当団体の会員とは、当団体で活動するボランティアの市民を意味しています。
- ・「3. 管理運営業務の実施状況」内の丸番号は、事業計画時の丸番号と一致しています。
そのため、事業計画に記載のなかった内容は、○としています。
- ・「6. 自主事業の実施状況」内の丸番号は、事業計画時の丸番号と一致していません。
- ・当団体の会計報告は、NPO 法の改正に伴い、活動決算書（活動計算書）となっているため、自主事業の経費の収支状況はそれに従って記載しています。
- ・ただし、指定管理業務の経費の収支状況は、表題から当団体の活動計算書と意味が異なるため、収支決算書と記載しています。

1. 全体のまとめ

環境交流センター（以下、「センター」という）は、2018年度から第2期の5年間でスタートし、特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21（以下、「当団体」という）が指定管理者として引き続き運営を担いました。

当団体は、「豊中市環境基本計画」と車の両輪のように位置づけられている、地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「豊中アジェンダ21」を推進する組織として、豊中市域における持続可能な地域の実現をめざして、市民が主体となり、行政・事業者と連携して活動を行っています。センターの事業目的は、当団体が推進する「豊中アジェンダ21」の内容と一致するところであり、センターの運営を通して、「第3次豊中市環境基本計画」と「第3次豊中アジェンダ21」が共有する「望ましい環境都市像」の実現、および「第3次豊中アジェンダ21」の80項目の行動提案の達成をめざして、センターの管理・運営を行ってきました。

実施に際しては、リサイクル交流センターと環境情報サロンの機能統合という経過を踏まえ、市民や市民団体の集う場（環境プラットフォーム）として、市民が参加・参画した形での運営を行いました。さらに、環境活動に関心のある市民はもとより、環境問題に関心のない市民も気軽に立ち寄ることのできる場づくりの実施、および、多様な分野との連携もめざしました。センターの事業の一部は、当団体の各部会・プロジェクトのメンバー（ボランティアの市民）が中心となって企画・実施を行い、市民が市民に対して普及・啓発を行いました。

こうした中で、第2期の5年間は、「誰もが集える交流空間から」「気づきから実践に向けて」「地域と共に歩む施設へ」という3つのコンセプトを掲げ、以下のビジョンの達成をめざすこととしました。

「環境」は、家庭や地域、社会での生活そのものであり、生きていく中で必要不可欠なことがある。そのことに気づき、自ら行動できる人を育てることや支えることで、地域で活動が実践されたり、「環境」への理解が広がる。

2013年度からの第1期は、多くの市民の利用者に対して「種をまく」期間であったのに対し、第2期は、まいた種を「いかに育てて・つないでいくか」という期間と位置づけました。種を育てていくにあたり、“環境＝家庭や社会での生活そのものであることを気づいてほしい”“気づいたことを周りに伝えてほしい”“学んだことが地域に広がってほしい”という考えのもと、各事業に取り組みました。

2019年度は、ちょっとロハスな映画祭やみつろう eco ラップ作りを新たに行いました。また、親子ぐるぐるフェスの複数回開催、エコッキングの他施設連携、ちゃんぷる屋台村の開催、地域福祉ネットワーク会議や子どもの居場所支援者交流会への参加、メディアへの情報発信などの新たな取組みを通じて、市民や地域、関係者とのつながりをより広げていきました。

事業の実施を通して、2019年度の来場者数は18,354人、稼働率は66.3%（実績値）となり、いずれも最高評価サービスレベルを上回る結果が得られました。さらに、来場者数とは別に、自然観察会やちゃんぷる屋台村などのセンター外での取組みに対し、1,032人の参加がありました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、貸室の利用自粛や行事の中止、臨時休館があったため、来場者数は上記に留まりました。本来であれば、過去最大となった2016年度の19,083人を大幅に上回る結果になったと見込まれます。行事についても2～3月に中止となりましたが、特にファンクラブメンバー対象のおしゃべり交流カフェや、身近な生き物調べの報告会などは、2020年度に引き続き実施することで、センターのビジョンの達成に向けて取り組んでいきます。

2. 施設の維持管理・運営体制

(1) 施設概要

- ・施設名 豊中市立環境交流センター
- ・所在地 豊中市中桜塚1丁目24番20号
- ・施設規模 床面積 658.97 m²
- ・開館時間 9時～17時
- ・休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
- ・貸室区分 9時～12時、13時～17時
- ・受付開始 目的利用：使用日3ヵ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
目的外利用：使用日1ヵ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
- ・貸室 会議室1、会議室2、展示スペース（会議室1はABCの3つに分けることができる）

(2) 開館日数、および臨時休館

①開館日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
日数	26日	27日	25日	26日	27日	25日	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	27日	26日	24日	24日	25日	7日	289日

※開館時間中に臨時休館した日は日数に含んでいない

②臨時休館

期間	内容
6月16日（日）15:00～17:00	吹田市で拳銃が奪われる事件の発生に伴うもの
3月10日（火）～31日（火）全日	新型コロナウイルス感染拡大予防に伴うもの

(3) 運営体制

①職員

総括責任者1人、職務代理者1～2人（以上2～3人が常勤）、非常勤3人でセンターの運営にあたりました。

②担当理事

センターの運営と当団体の活動がうまくリンクするため、および、運営に関する当団体の意思決定を円滑に進めるため、当団体理事の中から担当理事5人（理事職の総括責任者含む）を選出し、担当理事会を4回開催しました。

月日	5月30日（木）	12月19日（木）	2月6日（木）	3月3日（火）	合計
参加者数	6人	7人	6人	6人	32人

※参加者数には同席した当団体職員も含む

③研修の実施

職員の能力向上、および施設運営に必要な知識を得るため、研修計画に基づき、研修の参加・実施を行いました。また、職員が自主的に受講する研修や、職員が講師となるための知識や技能を伝達するための研修も実施しました。

日時	内容	会場	研修の種類	参加者数
6月19日（水） 10:00～17:00	国家資格キャリアコンサルタント更新講習（技能講習）	大阪トヨペットエントプライズ	自主的に受講する研修	1人
6月24日（月） 9:30～10:10	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	5人
7月5日（金） 15:00～16:30	令和元年度人権問題事業者学習会	すてっぷホール	人権に関する研修	1人
8月8日（木） 9:00～10:30	1年目研修	環境交流センター	基礎的な研修	2人
1月20日（月） 9:00～9:30	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	5人
合計	5回			14人

※センター運営にあたった当団体職員の中の参加人数

（参考）研修の種類別の実施回数・人数

種類	回数	延べ人数
（１）人権に関する研修	1回	1人
（２）基礎的な研修	3回	12人
（３）専門的な研修	0回	0人
（４）自主的に受講する研修	1回	1人
（５）資格取得に関する研修	0回	0人
合計	5回	14人

④職員との意見交換

職員の働き方や職場環境の改善に向けて、当団体の理事長・副理事長を含む役員グループが、職員へのヒアリングや、職員参加による意見交換を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため、2020年度へと継続実施することとしましたが、ヒアリング2回、意見交換2回を実施しました。

実施期間：12月17日（火）～2月25日（火）

（４）運営会議

業務の状況報告やモニタリング、管理運営の検討などを行うため、当団体職員と環境政策課で運営会議を毎月実施しました。

月日	4月18日（木）	5月15日（水）	6月18日（火）	7月18日（木）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	2人
月日	8月20日（火）	9月20日（金）	10月24日（木）	11月28日（木）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	2人
月日	12月18日（水）	1月21日（火）	2月20日（木）	3月17日（火）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	3人	3人	2人

(5) 来場者アンケート

施設利用者に対するサービス改善、および指定管理者のモニタリング事項として、来場者アンケートを実施しました。結果については、別途提出した報告書の通りです。なお、毎年 100 枚以上の回収を目標としていますが、2019 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う行事の中止等の影響により、目標枚数に至りませんでした。

- ・期間：2 月 6 日（木）～28 日（金）
- ・対象：センターに来場した高校生以上の方
- ・回収数：94 枚（目標数 100 枚）
- ・実施方法：受付への設置、および来場者への配布
- ・その他：回答者の中から抽選で 10 人に図書カード（500 円）を進呈
中学生以下を対象に、簡易なこどもアンケートもあわせて実施
（こどもアンケートは 30 枚回収、回答者全員に粗品（文房具）を進呈）

(6) 設備点検・維持、および修繕

①設備の点検・維持（定期）

- ・床のワックスがけ（年 3 回）
- ・床のワックス剥離（年 1 回）…展示スペースのみを実施
- ・空調設備の点検（年 5 回）…業者による点検 2 回、職員による簡易点検 3 回
- ・自動扉の点検（年 4 回）
- ・消防設備の点検（年 2 回）
- ・屋根上の点検（年 2 回）…空調設備の簡易点検とあわせて実施（3 回）

②設備や備品の修繕・追加

月日	内容
4 月 23 日（火）	消防設備受信機のバッテリー交換
3 月 25 日（水）	誘導灯のバッテリー交換
3 月 31 日（火）	正面玄関のロールスクリーンの修繕・交換 駐輪場の伸縮扉の受け金具の変形部分を修繕 郵便ポストの修繕・交換 会議室の扉（2 か所）の修繕

③施設の維持

月日	内容
4 月 5 日（金）	裏庭の枝の剪定
4 月 6 日（土）	裏庭の整理
4 月 16 日（火）	裏庭の整理
6 月 26 日（水）	裏庭の草抜き、枝の選定
8 月 17 日（土）	施設前のタイル清掃、裏庭の草抜き
3 月 19 日（木）	裏庭の木の剪定

④その他

月日	内容	備考
4月4日（木）	上下水道局から漏水の確認要請があり、 水道業者 に点検を依頼	水道業者に点検してもらったが原因がわからず、当面様子を見ることとなったが、その後明らかな漏水は確認されていない
4月27日（土）	水道メーターの取り替え	上下水道局による定期取替
10月30日（水）	接続が不安定になってきていたため、インターネットのケーブルモデムの交換	通信速度の速いプランへ変更する形で新しいものへ交換
12月16日（月） 18日（水）	水道管工事のため、3時間程度の断水	特に問題なし
2月4日（火）	関西電気保安協会による点検	特に問題なし

（７）安全管理対策の状況

①安全管理マニュアル

当団体の職員、および会員が生命身体に危険を及ぼす可能性のある作業を行う際の留意事項をまとめた「安全管理マニュアル」を作成・提出しました。同マニュアルは、当団体の職員全員、および該当する会員に配布するとともに、事務室や倉庫などの目立つ場所に掲示しました。

なお、安全管理マニュアルに該当する作業による怪我や事故はありませんでした。

②緊急時のマニュアル

急病・けが、交通事故、地震、不審者・不審物、火災、警報といった緊急時の対応をまとめたマニュアルを整備しています。

なお、2019年度中に関連する対応はありませんでした。

③賠償責任保険、行事保険

センターの来場者への責任を果たすため、賠償責任保険に加入しました。また、屋外で実施するイベントのうち、参加者が怪我する可能性があると思われる行事に対し、行事保険に加入しました。

なお、2019年度中にいずれの保険も執行はありませんでした。

（８）クレーム・課題点

センターの運営の中で、確認された課題点について、適切に対応・改善しています。なお、2019年度は特筆すべきクレームはありませんでした。

月日	内容	対応
8月30日（金）	非通知設定の電話があり、明らかに日本語が母語と思われる年配の男性が、興奮した状態で片言の英語を使いながら、電話に出た女性職員に性的な発言や下着の色を聞くような発言を行った。	環境政策課へ経過を報告した。また、3回目の着信で男性職員が出たら、電話が切れて、それ以降の着信はない。
2月20日（木） ～27日（木）	環境情報検索用のパソコンにて、複数の利用者が不適切な利用を行っていたことを確認。	環境政策課へ報告し、2月28日（金）から利用を一時停止した。また、経過をまとめた報告書を後日に環境政策課へ提出した。

(9) 覚書の取り交わし

センターの運営に関する環境政策課と当団体の協議を踏まえて、円滑な施設運営をめざして、覚書の取り交わしを行いました。

月日	内容
8月16日付	1. 集いの広場の簡易な管理業務を基本協定書に記載する「その他市長が必要と認める業務」の一つとし、別記のマニュアルをもとに業務を行うこととする 2. 基本協定書に規定の備品明細書に記載されていない物品は、別に物品一覧表を定め、備品明細書に記載されている備品と同様に、管理・保守点検を行うこととする

(10) 申出書の提出

当団体は、豊中市の指定管理者制度の運用において、総合的な調整機能に課題があり、それにより指定管理者の団体間で不公平・不平等が生まれる結果になっていると考えており、制度の見直しを含めた課題解決の取組みを進めていただくように、豊中市長宛に申出書を提出しました。

月日	内容
2月4日付	1. 管理運営業務の年度評価の実施について 2. サービス水準合意書（SLA）におけるペナルティポイントとボーナスポイントについて 3. 指定管理者に対する情報共有や研修の場の設定

(11) その他

①新型コロナウイルス感染拡大予防に関する対応（主な内容を抜粋）

月日	内容
2月20日（木）	豊中市の方針について、環境政策課から説明を受けた。また、センターの貸室利用についてもできるだけ自粛するよう呼びかけてほしい旨の要請があった。
2月21日（金）	2月中のセンターの行事の中止と、展示スペースの机・イスとキッズスペースの撤去を決定。（展示スペースの机・イスとキッズスペースの設置は当団体の取組みによるもののため、当団体が撤去の判断を行い、それを環境政策課が了承した。）
2月25日（火）	3月20日までの行事の中止を当団体で決定し、環境政策課へ報告。
2月26日（水）	展示スペースの机・イスとキッズスペースを撤去。
2月28日（金）	会議室の利用者に対して、利用時の予防対策の用紙の配布を開始。
3月9日（月）	3月9日～31日は臨時休館とするよう、環境政策課から要請があった。
3月10日（火）	3月31日までの貸室の申込者に対して臨時休館となることの連絡を開始。
3月11日（水）	4月4日のセンター内での行事の中止を決定。
3月12日（木）	ファンクラブ向けに臨時のメールマガジンを発行し、臨時休館を連絡。
3月17日（火）	運営会議で環境政策課から21日から臨時休館の再開の説明を受ける。
3月19日（木）	貸室再開の日程や、条件付きで認める貸出し内容などを環境政策課と調整。
3月20日（祝）	環境政策課から4月3日までの貸室停止と行事中止の説明を受ける。
3月23日（月）	環境政策課から4月3日まで施設も再開しないとの説明を受ける。
3月24日（火）	リユースコーナーの申込済みの方、リユースバザーの有効応募者の方に対して、今後の対処を郵送。
3月26日（木）	4月1日～3日の貸室の申込者に対して臨時休館のため利用できないことを連絡（該当1件のみで連絡がついた日）。

②環境交流センターの自転車のサドルの盗難に関する対応

月日	内容
9月10日(火)	業者による清掃作業の終了後(18時頃)、駐輪場を施錠する際に職員がセンターに停めている自転車のうち1台のサドルが盗まれて、その自転車のかごに違うサドルが残されていることを発見。また、サドルを調節するネジが折られて、自転車のそばの地面に落ちていた。
9月11日(水)～12日(木)	職員間で駐輪場の異変に気づいたかなどについて確認。いたずらの可能性も考えて、自転車はそのまま駐輪場に。
9月13日(金)	防犯カメラの映像から、10日(火)16時頃に20～30代女性が行ったこと、直前にセンター内でリユースコーナーの抽選に応募していたことを確認し、その旨を環境政策課に報告。また、事件性があると判断し、職員が自転車を倉庫へ移動。
9月18日(水)	環境政策課から警察へ対応を相談するようとの指示があり、必要な資料を持って豊中警察署へ訪問。窃盗事件として取り扱うということで、同日中にセンターにて自転車の指紋採取、防犯カメラ映像の確認や記録が行われた。あわせて、自転車を触った職員1人が指紋採取に協力。
9月19日(木)	豊中警察署から、盗まれたサドルが取り付けられたと思われる自転車の写真の確認要請があった。
9月20日(金)	豊中警察署へ被疑者が出頭したため、同日中に被疑者が刑事に連れられて来場し、謝罪と盗んだサドルの返却、放置したサドルの引き取りを行うとのことであったため、厳罰を求めない旨の書類に記入し、すべて終了となった。

③警察からの要請に対する協力

月日	内容
10月29日(火)	岡町駅前の交番の方から、貸室利用の年配の利用者を対象に振り込め詐欺などの注意喚起を行いたいという依頼があった。11月1日(金)～16日(土)に、スタッフが貸室やフリースペースの利用者に事情を説明して承諾を得た上で、5日間で合計27人に対して注意喚起の説明をされた。

3. 管理運営業務の実施状況

(1) 地球環境の保全等に関する活動のための交流の場の提供

センターは日常的に人が訪れて、交流し、にぎわいがある場となることをめざして、日常的な取組み、行事など特定の日の取組みを複合的に実施し、多様な場づくりを行いました。

①ファンクラブ制度の運用

2014年4月から、センターに愛着を感じて応援してもらうファンクラブ制度の運用を開始しました。センターの取組みに協力していただける市民の方を登録し、メンバー証の発行、メールマガジンの配信、メンバー限定特典の提供などを行いました。2018年度末の登録者数 573 人に、新規登録と退会を合わせた 2019 年度末の登録者数は 637 人（大人メンバー471 人、ジュニアメンバー166 人）でした。

ファンクラブ制度では、ファンクラブメンバーが地域での活動の担い手となっていくことをめざしており、センター内でのボランティアの場のあり方を検討するとともに、メンバーが交流できる場（交流サロン）を通じて参加の呼びかけを行っていくこととしました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、交流サロン、およびメンバー向けのお楽しみイベントとして実施しているファンクラブ交流会ともに中止となりました。

【ファンクラブの登録者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規登録	3	1	4	11	7	6	8	7	7	6	8	0	68 人
退会	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	4 人

※新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため、新規登録の対応は 3 月 8 日（日）まで

【メールマガジンの配信数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
配信数	247	247	247	252	252	254	256	259	262	264	267	267

※3 月は月に 2 回配信（配信数が重複する場合は 2 回目の配信数）

【ファンクラブ対象の行事】

日時	内容	参加者数
3 月 7 日（土）13:00～15:30	ファンクラブ交流会	中止
3 月 12 日（木）10:00～11:30	おしゃべりカフェ	中止
合計	0 回	—

<成果や工夫したこと>

- ・ファンクラブ交流会の企画は、引き続き「コト×コト交換マルシェ」としました。2018 年度はテーマを設定せずに得意なこと、好きなことなどでコトコト交換をしましたが、2019 年度はテーマを「紙・布」とし、廃棄される素材を活用した工作ブースを設けました。また、2018 年度の参加者の方が、2019 年度の工作ブースを担当するゲストとなりました。
- ・ファンクラブ制度を通して、「センターでのボランティア」から「地域でのボランティア」へとステップアップしてもらい、豊中での環境活動の裾野を広げていくことをめざして、環境ボランティアを知ってもらうことを兼ねた「おしゃべり交流カフェ」を企画しました。開催は中止となりましたが、すでに広報を行っていたため、参加を希望する問合せが数件ありました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

・年に1度の大規模なファンクラブ交流会を行うかわりに、おしゃべり交流カフェのテーマのバリエーションを増やし、開催回数を増やすことで、定期的にファンクラブメンバーと職員が交流し、ボランティアへのステップアップにつながる関係づくりと仕掛けづくりをしていきます。

②ポイントカードの配布

ファンクラブメンバーを対象にポイントカードを配布し、センターの利用や行事の参加などに応じてポイントを付与し、ポイントが貯まれば景品を進呈しています。また、ジュニア（子ども）向けのポイントカードについて、2018年度から新たな仕組みでスタートしました。ポイントカードについて、2019年度中の景品の交換数は67件でした。

また、2020年度より大人メンバーへ切り替わるジュニアメンバーが1人いることから、2019年度中に対象者へ大人メンバーのポイントカードを送付しました。



＜成果や工夫したこと＞

・定期的にセンターを利用するジュニアメンバーが新たなメンバーを紹介してくれることで、ジュニアの利用者が増加しました。

・ジュニアメンバーは、エコゲームを利用することでポイントが付与されるため、ポイント付与を目的に来場し、放課後や休日の居場所の1つとしてセンターを利用することにつながっています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

・ジュニアのポイント付与について適切であるかを点検し、環境への学びにつながるような学習シートの充実やポイント付与の仕組みを検討していきます。

③陶器とりかえコーナー

家庭で使わなくなった陶器を回収・展示し、希望する来場者が自由に持ち帰ることができるようにしました。赤ちゃんからのESDが実施している「陶器とりかえ隊」の常設コーナーとして、当団体が日常的な管理や、とりかえの対応を行いました。

また、2018年度に豊中市伊丹市クリーンランドの事業として、陶器を回収してリサイクルする事業（実証実験）への協力依頼があり、やむなく廃棄していた、とりかえできない陶器をクリーンランドへ提供することとした結果、2019年度に1回収収できました。



<成果や工夫したこと>

- ・多くの市民が陶器とりかえコーナーをめざして来場しており、取組みが定着しています。
- ・高齢者の男性が毎日何度も来場してその都度陶器を持ちかえり、また、陶器以外の周辺の展示物なども持ち帰ろうとすることから、そうした方には職員が声かけなどの確認を行いました。その後、ご家族から認知症であることのお知らせがあり、ご家族の意向を受けて、陶器の持ち帰りをお断りするように声かけしています。
- ・クリーンランドの陶器の回収に協力したことで、やむなく混ざっていたヒビや欠けのある陶器や、展示中に割れた陶器がリサイクルできて、センターから出る不燃ごみも減らすことができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・陶器とりかえコーナーにほとんど陶器のないタイミングもあります。陶器が多い時にストックしておき、少なくなった時に置くなどの対応も検討していきます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、今後の陶器の持ち込みや持ち帰りについて検討を進める必要があります。

④フリースペース・キッズコーナー

展示スペースにテーブル・イスを設置して貸室利用がない時に予約なしに利用できるフリースペースと、子どもが靴を脱いで遊べるスペース（キッズコーナー）を設けました。なお、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2月26日（水）からはテーブルやイス、キッズコーナーを撤去しました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・子どもたちの放課後や長期休み期間には多くの子どもが利用しており、フリースペースやキッズスペースとして定着しつつあります。また、過去には友達同士で遊びに来ていた子が、高校生になって自習時に利用するなど、長期にわたってセンターを利用するケースも出てきています。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、豊中市からセンターの貸室の利用自粛呼びかけが出されたことを受けて、他施設ではフリースペース等の利用が継続されていましたが、センターではいち早くテーブルやイス、キッズコーナーを撤去し、来場者の3密の回避に努めました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、今後のフリースペースやキッズコーナーのあり方を検討していく必要があります。
- ・設置している環境学習のワークシートの種類が限られており、利用も少ないため、今後の方向性を検討していきます。

⑤エコゲーム

フリースペースで、みんなで遊ぶことができるエコゲーム（電源を使わないボードゲームなど）を11種類用意し、ファンクラブメンバーを対象にセンター内での貸出しを行い、2019年度は年間で156回の利用がありました。なお、2月26日（水）にテーブルやイス、キッズコーナーを撤去して以降は、エコゲームの貸出しも中止しました。

2019年度は、2017年度まで実施していたエコゲーム大会の開催に向けての体制等を検討しましたが、具体的な体制の構築には至りませんでした。

＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度からジュニアのポイントカードにエコゲームの利用を入れたことで、エコゲームの貸し出しが増加していましたが、2018年度の118回から、2019年度は2月25日までで156回へと大幅に増加し、センターでの子どもたちの過ごし方の1つとして定着しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・エコゲーム大会の開催に向けて、センターの貸室を利用したエコゲームの活動をする団体の関係者にもヒアリングしましたが、現時点で体制の確立には至っていません。今後は、センターでのエコゲームのあり方そのものについて検討していくことが考えられます。

⑥リサイクル工作

家庭の不用品や身近な材料を利用し、暮らしを便利にするような手作り工作を行いました。なお、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、予定していた2回が中止となりました。

日時	内容	講師	参加者数
8月21日（水） 13:00～14:00 15:00～16:00	紙すきではがき作り	当団体職員	24人
10月29日（火） 13:00～15:00	タイルで作るカラフル鍋敷き （希望者は30日に仕上げ作業を実施）	常行重男さん （ツネユキタイル店）	14人
10月30日（水） 13:00～14:00			9人
2月27日（木） 13:00～15:00	新聞紙でエコバッグ作り	当団体職員	中止

3月25日(水) 10:00～11:30	ミニティッシュケースを作ろう	安田寿江さん(ワークショップファシリテーター)	中止
合計	3回		47人

※10月29日、30日の参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・紙すきではがき作りは、夏休みの親子で参加するイベントとして定着しつつあります。
- ・親子ぐるぐるフェスで人気のタイルを使った工作について、初めて本格的な製作として鍋敷きをテーマに実施しました。参加者の多くが仕上げ作業も自分で行うことを希望され、連日参加されました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・手芸関係の講座はこれまで地域の団体に講師を依頼していましたが、その団体の都合により講師を引き受けてもらうことができなくなりました。今後は他の団体等へ依頼していくことが考えられます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、密接しないレクチャーの方法の検討が必要です。

⑦リユースコーナー

豊中市伊丹市クリーンランドや豊中市家庭ごみ事業課と連携し、クリーンランドで回収したまだ使える家具や、豊中市臨時ごみリユース支援事業から提供を受けた家具などのリユース品を展示し、最終日に抽選会を行って、希望する市民へ提供しました。

なお、3月実施分は新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため、展示期間の途中で中止となり、2020年4月に非公開で抽選を行いました。

期間	提供元	応募数	抽選会・抽選者	抽選方式
6月4日(火)～ 30日(日)	豊中市伊丹市クリーンランド	10点中9点 に合計44件	6月30日(日)14:00～ 参加者27人(スタッフ含む) クリーンランドが抽選	抽選会の参加者を優先
9月10日(火)～ 27日(金)	豊中市臨時ごみリユース支援事業	19点中16点 に合計36件	9月27日(金)14:00～ 参加者7人 当団体職員が抽選	抽選会の参加に関わらない
3月3日(火)～ 8日(日)	豊中市臨時ごみリユース支援事業	19点中10点 に合計17件	2020年4月24日(金) 非公開 家庭ごみ事業課職員が抽選	抽選会の参加に関わらない

※応募数は抽選までにキャンセルの申し出があった物を含む

※3月の開催は、3月27日(金)まで展示し、同日に抽選会を予定していた



<成果や工夫したこと>

- ・2019 年度も合計 3 回実施し、一定の数の家具をリユースすることができました。
- ・3 月に臨時休館となって以降もリユースコーナーの応募に関する問い合わせが多数あり、市民のニーズの高さを感じることができました。
- ・家庭ごみ事業課が作成したアンケートに協力し、応募者へ記入を呼びかけました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・リユースコーナーの実施期間中のみ来場し、毎回応募する方が一定程度おられます。リピーターばかりでなく、より多くの方に参加してもらえるように、さらなる広報について検討していきます。

⑧リユースバザー

参加する市民を募集し、家庭で使わなくなった衣服や生活用品を安く販売するリユースバザーを開催しました。地域こだわりマルシェ&野菜市場と一緒に実施することで集客を確保するとともに、定期的に古本市や省エネ相談会を同時開催することで複合的なにぎわいを作り出しました。また、出店者の意見を踏まえて、実施方法を少しずつ改善・変更して進めました。

また、子どもが主体となったバザーの機会として、えこっ子フリマ（子ども店長による子どもの物品を販売するバザー）を親子ぐるぐるフェスにおいて実施しました。

【リユースバザー】

月日	出店数	参加者数	同時開催
4月6日	14店	251人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
6月1日	11店	189人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
8月3日	14店	206人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
10月5日	14店	219人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
12月7日	14店	212人	地域こだわりマルシェ&野菜市場、省エネ相談会
2月1日	13店	199人	地域こだわりマルシェ&野菜市場、古本市
合計	80店	1,276人	

※いずれも土曜の 10:15～13:00 で実施

※出店数は、主催者関係も含めて 14 店だが、直前のキャンセルにより 14 店に満たない場合もある

※参加者数は同時開催の人数を含む



<成果や工夫したこと>

- ・2018 年度と比べて、6 回合計で参加者が約 100 人増加しました。また、出店の応募についても平均して 2 倍以上の応募があり、新規の応募も増えてきています。
- ・一度に多くの来場者が訪れるイベントですが、駐輪場の荷物の搬入や自転車の整列、センター内での整列の対応などに職員を配置することで、事故や大きなトラブルがなく開催できています。
- ・省エネ相談会や古本市を同時開催も定着しつつあり、それらにも多くの参加を得られています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・参加者が 200 人を切った 2 回は、いずれも広報とよなかへの掲載が当月ではなく前月であった回でした。来場者に年間スケジュールを渡すなど、広報とよなか以外での広報手段も考えられます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、今後の実施方法についての検討が必要です。

【えこっ子フリマ】

日時	出店数	参加者数
7 月 21 日（日）13:00～15:30	7 店	238 人
1 月 19 日（日）13:00～15:30	7 店	327 人

※参加者数は行事全体の人数



<成果や工夫したこと>

- ・「えこっ子フリマ」では、物を大切にする想いを次の人につなぐためのメッセージカードの見直しや、新たにお店の看板を設置してもらうなどツールの改善を行いました。お店の特徴やおすすめポイントを店名にするなど、子どもたちの工夫が見られました。
- ・「えこっ子フリマ」もリユースバザーと同様に、より多くの子どもたちに参加してもらえよう、連続して 3 回出店することができないようにしました。これにより、これまでよりも積極的に広報を行い、初めて出店する人の割合が増加しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・「えこっ子フリマ」は、小学生が店長となり親子で参加しますが、子どもより親の方が熱心に販売するブースもあり、子どもたちが主体となって積極的に関わられるような仕掛けづくりを工夫していく必要があります。

⑨親子フェスティバル

未就学児から小学生くらいの子どもと、その保護者を対象に、3R の行動を通してモノと向き合い、モノを大切にする習慣と、ごみの減量を意識したくらしを考えるための参加・体験型イベント「親子ぐるぐるフェス」として開催しました。モノへの思いをメッセージカードに添えて次に使う人へ販売する「えこっ子フリマ」、制服・学用品の販売や絵本の交換会などを通して、出展者と参加者の交流をはかりました。また、多くの親子の参加を得るため、他団体と連携し、絵本の読み語りやリサイクル工作、おもちゃ病院なども一緒に開催しました。2017 年度から実施し、過去 2 回がいずれも多く参加を得て好評であったことから、2019 年度は 7 月にも開催し、年 2 回の実施を試行しました。

また、実施に先立ち、絵本の交換会で使用する絵本について、期間を設けて回収を行いました。

日時	内容	参加者数
6 月 4 日（火）～7 月 13 日（土）	絵本の回収	—
7 月 21 日（日）13:00～15:30	親子ぐるぐるフェスの開催	238 人
12 月 10 日（火）～1 月 13 日（祝）	絵本の回収	—
1 月 19 日（日）13:00～15:30	親子ぐるぐるフェスの開催	274 人
合計	2 回	512 人

※参加者数は出店者を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018 年度に出店者、来場者とも非常に好評であったことから、開催を冬の 1 回から、夏・冬の 2 回に増やして実施しました。
- ・絵本の交換会では、回収した本のうち、毎回 100 冊以上が新しい持ち主の手元へ渡りました。
- ・3R をテーマにした工作では、出店者の工夫により、宝箱づくりや万華鏡など、これまでに実施していない新しい内容を盛り込んで実施することができました。
- ・夏の開催時は、夏休みの自由研究等に役立ててもらえるような出展内容の工夫や情報提供を行い、リサイクル工作展への応募にもつながりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・3R をテーマにした工作は、毎回同じ内容にならないように、定期的に内容を見直し、マンネリ化しないように工夫していく必要があります。
- ・夏と冬の年2回の開催を実施したところ、夏よりも冬の方が参加者のニーズが高いことがわかったため、今後は冬の1回のみ開催していくことが考えられます。

⑩エシカルマーケット

エシカル (ethical) は、「倫理的」「道徳的」という意味ですが、最近では「環境保全や社会貢献」といった意味合いが強くなっており、倫理的消費者という意味で、「人権に配慮した商品を買うこと」「動物に配慮した商品を買うこと」「寄付金付き商品を買うこと」などを行う消費者をエシカルコンシューマーと呼びます。そのような商品を取り扱う団体などを集めて、エシカルマーケットを開催し、誰もが気軽に参加してエシカルコンシューマーを実践する場としました。

また、2019年度は、2018年度に持続可能な消費に関する講座として実施した内容を、エシカルマーケットにて同時開催の講座として実施しました。

日時	内容	参加者数
9月29日(日) 10:00～15:00	エシカルマーケット 出店11団体（当団体を含む） リレートーク「豊中からSDGsについてできること」 ジュゴン保護キャンペーンセンター ウータン・森と生活を考える会 国際交流の会とよなか（TIFA） （いずれもエシカルマーケットの出店者）	176人

※参加者数は出店者を含む

※リレートークは13:00～14:30に同時開催として実施



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度は来場者が少なかったことから、豊中産の野菜マルシェや手づくりおやつ、手仕事品の販売に加え、映画上映やコンサート、ワークショップ、おはなし会、出店団体によるリレートークといった多様な切り口でエシカルを発信し、来場者を増加させることができました。
- ・団体によるリレートークでは、「豊中からSDGsについてできること」と題し、SDGsを学ぶ場づくりをしました。定員15人に対して、いずれのテーマも12～16人の参加がありました。各団体からのお土産付きとし、ジュゴンやオランウータンなど子どもが興味を持つ活動をしている団体であったことから、親子での参加も多数ありました。

- ・2018 年度にエシカルに関心がある大学生の団体（有志メンバー）に当日の運営スタッフとして協力してもらいましたが、2019 年度は出店者として参加してもらうことができて、大学生の活動のステップアップの支援につながりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・「エシカル」という言葉が市民にはまだ定着していないため、「エシカル」とは何か、言葉の認知度を高めていく必要があります。リレートークが好評であったことも含めて、マーケット（お祭り）だけではなく、講座形式でエシカルや持続可能な消費について考えることを検討していきます。

⑪地域こだわりマルシェ＆野菜市場

地産地消および循環型社会の推進のため、とよっぴーで育てた豊中産の野菜などを有料配布しました。また、「豊中市小売商業団体連合会」と連携し、環境や健康に配慮し、こだわりを持って地域で商いをしているお店の商品も販売しました。

月日	4月6日	5月4日	6月1日	7月6日	8月3日	9月7日	
参加者数	251人	72人	189人	73人	206人	68人	
月日	10月5日	11月2日	12月7日	1月11日	2月1日	3月7日	合計
参加者数	219人	59人	212人	55人	199人	中止	1,603人

※いずれも土曜の 10:00～11:30 で実施

※3月7日は新型コロナウイルス感染拡大予防により開催を中止

※4・6・8・10・12・2月はリユースバザーと同時開催のため、バザーの参加者を含む

※参加者数は販売のスタッフを含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・多くの参加を得るため、引き続き会員が中心となって周辺地域へチラシの配布を行いました。
- ・リユースバザーと同時開催の月は、野菜やこだわり品の販売も多く、相乗効果を生み出しています。
- ・開始と同時に野菜を選ぶ列がスタートするため、できるだけスムーズにできるように、販売のレイアウトを試行錯誤しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・開始と同時に多くの野菜が売り切れ、来場者が激減してしまうため、野菜以外の商品を扱う店舗の売り上げが芳しくない場合があります。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3密にならない販売方法の検討が必要です。

⑫自然工作

豊中産の自然素材（竹や小枝など）を使って、自然工作を実施しました。また、工作の過程や、できた工作物（おもちゃ）で遊ぶことを通じて、長らく自然環境の保全に取り組むシニアと、次世代の子どもたちの交流をはかりました。

日時	内容	講師	参加者数
8月1日（木） 10:00～11:30	豊中の竹で作る水でっぼう	当団体の自然部会・竹炭プロジェクトのメンバー	47人
12月8日（日） 10:00～11:30	ビー玉ゲームを作ってあそぼう		39人
合計	2回		86人

※参加者数は当団体の会員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・基本的に、毎年同じ内容とならないように配慮しています。2020年度は、水でっぼうのようにタイトルで何を作るかわかりやすい内容であったため、例年よりも多くの参加を得ることができました。
- ・水でっぼうの筒に使う竹をのこぎりで切るなど、工作だけでなく体験の機会にもなりました。
- ・展示スペースに机・イスを並べて、参加者の子どもたちや保護者と講師のシニアと一緒に実施する様子は、まさに「交流の場」となりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・参加者にとって魅力のあるテーマで実施できるよう、今後も講師と一緒に検討していきます。
- ・竹を切る際などは講師と一緒に補助していましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、密接しない実施の方法の検討が必要です。

⑬おもちゃ病院

とよなか・おもちゃ病院と連携し、モノを長く使ってもらうため、壊れたおもちゃを修理する場を作りました。その場で修理できなかったおもちゃは、入院として一時預かりを行い、とよなか・おもちゃ病院が修理後、持ち込んだ方へお返ししました。

月日	4月13日	6月8日	8月10日	10月12日	12月14日	2月8日	合計
参加者数	34人	21人	36人	中止	46人	43人	180人

※いずれもすべて土曜の10:00～11:30で実施

※10月12日は暴風警報等の発令により中止

※参加者数は講師を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・新規の問合せも多く、多くの市民の参加を得られています。
- ・上記以外に、親子ぐるぐるフェスの中でもおもちゃ病院を実施し、おもちゃを修理する機会を設けました。
- ・おもちゃの持ち込みや、入院したおもちゃの引き取りの際に親子で一緒に来る参加者が多く、モノの大切さを子どもたちに感じてもらう機会となっています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・上記の単独開催よりも、親子ぐるぐるフェスでの実施の方が修理の受付が多い場合もあります。広報とよなか以外のツールも使いながら、単独開催も広く広報していくことが考えられます。
- ・とよなか・おもちゃ病院は、とよなか人権まちづくりセンターでも毎月活動していましたが、2020年4月からとよなか人権まちづくりセンターの運営体制が変更され、おもちゃ病院を実施できなくなるため、2020年度からはセンターで毎月実施していく予定です。

⑭おはなし会「わにわに」

未就学児と保護者を対象にした絵本の読み語りを開催しました。環境につながる絵本を取り入れることや、簡単な手づくり工作をセットで行うことで、若い親子世代が環境やリサイクルに親しんでもらう機会としました。なお、9月と1月は、それぞれエシカルマーケット、親子ぐるぐるフェスの企画（ブース）として実施しました。

月日	5月12日	7月7日	9月29日	12月22日	1月19日	合計
参加者数	3人	11人	21人	13人	46人	94人

※いずれも日曜、単独開催は10:30～11:30で実施（5月12日、7月7日、12月22日）

※当団体の企画屋本舗プロジェクトが実施（参加者数は企画屋本舗の担当者を含む）



＜成果や工夫したこと＞

- ・エシカルマーケット、親子ぐるぐるフェスの中でおはなし会を実施したため、2018 年度よりも多くの参加者に読み語りをすることができました。
- ・7月の開催では、折り紙などで七夕飾りを作り、(2)⑤環境ギャラリー「豊中の笹で七夕飾り」に飾るというタイアップを行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・5月の開催は10連休の翌週であったため、一般の参加者が0人で、実質的には開催できませんでした。今後は、参加者にとって参加しやすい日程を検討していきます。

⑮環境映画祭

「あしたの暮らしとよなか」と連携し、2014～2016 年度に「種まきシアター」と題して、持続可能な地域をテーマにしたミニシアター系の映像上映と参加者同士の意見交換の場づくりを行ってきました。2017 年度からは「あしたの暮らしとよなか」が自立し、センターで独自に実施しています。

2019 年度は、これまでの経過から、あしたの暮らしとよなかとの共催により、大学生サークルの協力も得て、「ちょっとロハスな映画祭」と題した映画祭を開催しました。有料／無料の複数の映画を上映し、ロハスな飲食物の販売を実施することで、関心の裾野を広げ、新たな層の参加者の獲得につなげる機会としました。

日時	内容	参加者数
6月23日(日) 10:00～17:00	有料上映 「0円キッチン ～食材救済人のおいしい旅路」 「HAFU・ハーフ」 「ビューティフル アイランズ～気候変動 消え行く島の記憶」 「コスタリカの奇跡 ～積極的平和国家のつくり方」 無料上映（短編） 「懐かしい未来 ラダックから学ぶ（ダイジェスト版）」 「タシちゃんと僧侶」 「パーマカルチャー 地球とつながる楽園の暮らし」 「スマホの真実 紛争鉱物と環境破壊とのつながり」	69 人

※参加者数は関係者などを含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・初めて映画祭を開催することで、参加者は多様な映画を同時に見ることができる機会となり、センターにとってもこれまでになかった新たな層の参加が得られました。
- ・映画の上映権は、あしたの暮らしとよなかが「豊中市夢基金」（担当：コミュニティ政策課）を活用しており、間接的ですが、指定管理事業で初めての助成金の活用となりました。
- ・アイセック大阪市立大学委員会の協力を得て、大学生が考えた映画に関するメッセージ入れたチケットデザインにするなど、大学生の視点も入れた運営ができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・あしたの暮らしとよなかとの共催を前提に、新たな層の参加が得られる機会として、今後も開催を検討していきます。

○当初の事業計画以外の取組み

年度当初の事業計画では予定していませんでしたが、豊中市伊丹市クリーンランドと連携して講座を行いました。

日時	内容	参加者数
6月30日（日）13:00～14:00	クリーンランド市民講座（かわいいバナナ好きのキャラクターを作ろう）	15人
6月30日（日）14:15～15:00	クリーンランド出前講座	19人
合計	2回	34人

※参加者数は関係者などを含む



(2) 地球環境の保全等に関する情報の収集及び提供

環境問題そのものの情報から、環境活動や環境イベントに関する情報の収集・提供・発信、環境情報に関する問合せ対応、図書の閲覧・貸出、センターに関する情報の提供・発信など、さまざまな形で取り組みました。

①ホームページの運営

オリジナルのドメインによる、センターのホームページを管理し、施設情報・イベント・環境情報などを発信しました。2019年度のページビュー数は20,579でした（ブログページは除く）。

さらに、ホームページの運営の一環として、スタッフブログを更新し、2019年度に29件の情報を掲載しました。ブログではイベントの報告を掲載し、講師や参加者にも掲載したことを伝えて、ブログやホームページの認知度向上に努めました。

ホームページアドレス <https://kankyokoryu.jp/>



<成果や工夫したこと>

- ・環境交流センターのおしらせを毎月掲載するなど、適切なページの更新を行いました。
- ・ホームページのページビュー数は、2018年度の18,335ページから20,579へと10%以上増加しました。「トップページ」の他に、「アクセス」「イベント情報」「不用品交換コミュニティボード」のページの閲覧が多くなっています。
- ・スタッフブログの更新は、2018年度に26件とやや減少していましたが、2019年度は2017年度と同程度の発信となりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・定期的な更新を必要としないページは、ずっと同じ情報を掲載したままとなっています。定期的に掲載する情報の点検・見直しを進めていくことが考えられます。
- ・ページビュー数の把握について、解析方法により大きく異なることが引き続き課題となっています。今後も適切な把握方法について検討していきます。

②環境交流センターのおしらせ

センターの行事や案内を、「環境交流センターのおしらせ」としてチラシにまとめて毎月発行し、センター内での掲示や来場者への配布を行うとともに、環境交流センターのホームページでも公開しました。

2018年6月からはデザインをリニューアルし、各月の情報量に応じて、A4サイズ2ページ、または4ページの構成としています。2019年度からは、公共施設への一斉配架を取りやめ、毎月利用者が取りに来る一部の施設のみの配架としました。

また、お知らせに掲載している内容は、豊中市立図書館のメールマガジンへ情報提供し、配信・掲載を通して広く周知しました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・広報とよなかへ掲載した情報を中心に、毎月適切に作成・発行しました。
- ・公共施設への配架した枚数に対して、行事参加などの反応が少ないことから、2019 年度は他施設への配架を取りやめて、様子を見ることにしました。その結果、他施設の来場者でおしらせを取っている市民の方がいることがわかり、当該施設へは配架を継続することとしました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・一部の施設を除き、配架を取りやめた影響がなかったことから、今後もこの方針を継続します。

③リーフレットの配布

来場者や行事参加者へセンターのリーフレットを配布するとともに、他の公共施設へも配架しました。なお、リーフレットには貸室の利用に関する補足的な用紙を挟み込んでいますが、情報が変更したことから 2019 年度に修正を行いました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営をしましたが、特記すべき事項は特にありません。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・もっと多くの市民にセンターを知ってもらえるように、必要に応じて引き続きリーフレットを配布していきます。

④多様な媒体や手法による情報の発信

環境交流センターのおしらせの内容について、ファンクラブメンバーを対象にメールマガジンを発行するとともに、豊中市立図書館のメールマガジンへ情報提供し、配信を通して広く周知しました。

また、イベント告知ページへ一部のイベント情報の掲載を行いました。新型コロナウイルス感染拡大予防による行事の中止など、掲載できない月は実施しませんでした。

＜成果や工夫したこと＞

- ・豊中市立図書館のメールマガジンの配信システムが変更となり、配信を受け取った市民からセンターへ配信に関する問合せが複数ありました。結果的に、市民の方が内容を目にしていることがわかりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・イベント告知ページへの投稿について、より多くの方に知っていただくため、投稿先の拡大や投稿数の拡充を検討していきます。

⑤環境ギャラリー

環境交流センターの展示スペースを活用し、環境にまつわる展示を行いました。

2019年度は、指定管理事業に関するものや、豊中の自然をテーマとしたものなどを紹介しました。

期間	内容	団体
5月9日（木）～30日（木）	豊中の自然展 ツバメ営巣調査 2018	当団体の自然部会
7月3日（水）～12日（金）	豊中の笹で七夕飾り	—
7月14日（日）～31日（水）	夏休み応援フェア 子どものための環境の図書展	—
1月23日（木）～2月24日（祝）	あの日を忘れない！～いのちと環境を守り、未来につなごう～	福島プロジェクト 豊中



＜成果や工夫したこと＞

- ・間伐した竹を活用し、センターに設置して来場者が七夕飾りや短冊をつけられるようにしました。また、展示期間中に実施したおはなし会「わにわに」ともタイアップしました。
- ・リユースコーナーや自主事業の展示などが多かったため、環境ギャラリーとしての実施は4回でしたが、展示期間中は展示スペースの賑わい作りにつながりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・毎年同じテーマの展示も含まれているため、新たなテーマの展示も検討していきます。

⑥身近な生き物調査

自然に関心のある市民を調査員として募集し、市民による豊中市内の自然調査を実施しました。2019年度は身近な自然と触れ合い学ぶ機会として、「写真による豊中の“むし”調べ」を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3月以降のまとめ作業や報告書の作成を延期したため、報告会・交流会の開催とあわせて、残りは2020年度に実施します。

実施日	内容	場所	参加者数
4月28日（日）	準備・打合せ	環境交流センター	5人
5月11日（土）	調査説明会・撮影体験会	環境交流センター	18人
5月11日（土）～10月31日（木）	調査期間（3期）	豊中市内	26人
7月16日（火）	庄内地域撮影会	大島町～庄内幸町	9人
8月31日（土）～2月18日（火）	まとめ作業、報告書作成（9回）	環境交流センター	51人
合計	15回		109人

※当団体の自然部会が実施

※調査員数 26人



＜成果や工夫したこと＞

- ・「写真による豊中の“むし”調べ」としては、2009・2010年度から9年ぶりとなる調査を実施し、2018年度とほぼ同じ人数の市民調査員に参加していただくことができました。
- ・デジカメやスマートフォンの普及により、写真での撮影が簡単になっており、多数のデータを集めることができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3月以降のまとめ作業や報告書の作成を延期したため、調査結果や成果がまだ判明していません。2020年度は新しいテーマの調査を実施しながら、「写真による豊中の“むし”調べ」についても残りを実施していきます。

⑦図書などの閲覧・貸出し

環境に関する図書や資料を設置し、図書・資料室にて閲覧スペースを設けるとともに、利用者が希望する図書などについて、内規に基づき貸出しを行いました。さらに、閲覧・貸出しを促進するため、環境ギャラリーの一環として、図書をテーマとした展示も実施しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出件数	1	0	3	6	4	1	1	4	2	5	3	2	32件
貸出冊数	1	0	6	14	7	1	1	6	3	9	4	2	54冊

※図書をテーマとした展示は、(2) ⑤環境ギャラリーに記載

※新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため、貸出しは3月8日（日）まで



<成果や工夫したこと>

- ・貸出件数が 2018 年度の 26 件（46 冊）から 32 件（54 冊）へと増加しました。図書を貸出しでファンクラブのポイントがもらえることから、子どもの貸出しが増えつつあります。
- ・2018 年度の課題として、交流フロア横に貼りだす「今月のオススメ」が滞る時期がありましたが、2019 年度は定期的に貼り換えを行いました。また、「図書たんとうのつぶやき」を不定期で作成し、本棚の横に掲示して、図書の紹介を行いました。
- ・書籍以外として、ソーシャル&エコ・マガジン「ソトコト」という雑誌の定期購読を開始しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・研修利用を目的に、毎年 DVD を借りる方がいるため、映像系の購入を引き続き検討していきます。

⑧学生の実環境活動の支援

環境活動に関心ある学生が学びを深めるため、環境活動に関わる学生の活動支援などを行いました。

日時	内容
7 月 5 日（金） 15:20～16:30	大阪大学人間科学部の授業「人新世」（じんしんせ）の一環 地方自治体レベルでの環境の取組みを調べる大学生グループのヒアリング対応
2 月 24 日（祝） 13:30～17:00	大阪大学環境サークル GECS の総会出席（大阪大学豊中キャンパス）



<成果や工夫したこと>

- ・大阪大学の授業でのヒアリングは、インターネットで検索し問合せされたものですが、ヒアリング対応後もレポートの内容確認など丁寧に対応しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・取材の対応などは、学生側のニーズに対する支援が中心となっている現状です。センターとしての支援のあり方についても検討していきます。

⑨地域との連携強化

センターがある南桜塚校区の地域自治組織（南桜塚校区地域連絡協議会）に 2018 年 4 月の総会から当団体として正式に加盟しました。協議会の一員としての役割を果たすことを通じて、地元地域との連携を強化し、地域でのセンターの理解向上へとつなげていくことをめざして参加しました。なお、協議会の加盟団体は、防犯部会か防災部会のいずれかに参加することとなっており、当団体では引き続き防災部会に所属しました。

また、豊中市社会福祉協議会の地域福祉ネットワーク会議や、豊中市主催の子どもの居場所支援者交流会への参加を通じて、豊中市内の地域団体とのつながりを広げることがをめざしました。

【南桜塚校区地域連絡協議会】

項目	日時	内容	場所
全体	4 月 21 日（日）19:00～20:00	総会	南桜塚会館
	6 月 9 日（日）19:00～20:00	運営委員会	南桜塚会館
	9 月 28 日（土）19:00～19:30		
	11 月 2 日（土）19:00～20:00		
	1 月 26 日（日）19:00～20:00		
	1 月 11 日（土）18:30～21:00	新年互例会	サマルカンド柴藤
防災部会	5 月 18 日（土）19:30～21:00	防災部会	南桜塚会館
	7 月 20 日（土）19:00～21:00		
	8 月 17 日（土）19:00～20:30		
	10 月 19 日（土）19:00～21:00		
	1 月 18 日（土）19:30～21:00		
	9 月 21 日（土）19:30～21:00	防災研修会	南桜塚会館
	10 月 6 日（日）10:00～12:00	防災セミナー	南桜塚小学校
	11 月 23 日（祝）9:00～12:30	防災訓練（スタッフ参加）	南桜塚小学校
その他	2 月 15 日（土）19:00～20:00	防犯啓発セミナー	南桜塚会館

【地域福祉ネットワーク会議】

月日	エリア	場所
7 月 25 日（木）	南部	庄本地域福祉活動支援センター
7 月 31 日（水）	中部	すこやかプラザ
2 月 13 日（木）	中部	すこやかプラザ
2 月 17 日（月）	中西部	青年の家いぶき
2 月 19 日（水）	南部	庄本地域福祉活動支援センター

※時間はいずれも 13:30～16:00

【子どもの居場所支援者交流会】

日時	エリア	場所
2 月 7 日（金） 10:00～11:30	原田地域	原田介護予防センター

＜成果や工夫したこと＞

- ・南桜塚校区地域連絡協議会では、加盟団体の役割として運営委員会や防災部会に参加するとともに、スタッフとして行事等への参加することで、地域のステークホルダーと顔の見える関係づくりを心がけました。また、運営委員会でセンターの行事を PR したことで、関係者の方にセンターへ来ていただく機会にもなりました。
- ・原田地域 多世代で支える子どもの居場所支援者交流会は、過去に回答した「子どもの居場所に関する施設アンケート」を受けて、参加につながりました。センターに隣接する原田小学校区での交流はセンターとしては初めてでした。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・引き続き協議会や行事への参加を通して、地域との連携強化を進めていきます。

⑩近隣団体・環境団体との連携

センターに勤務する当団体職員が、定期的に近隣の行政や環境団体と交流をはかり、近隣や広域の環境情報を把握するとともに、必要に応じて情報の提供・発信を行っています。2019 年度は、特定の行事への参加などはありませんでしたが、他地域の環境分野の動向などについて、各地の環境団体や関係者と断続的に情報交流を行いました。

＜成果や工夫したこと＞

- ・各地での環境団体の動向や、SDGs への動きについて、各地の環境団体や関係者との情報交流を通じて、現状を把握しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2014～2016 年度に池田エコミュージアムと相互に協力・交流を行ったように、あらためて近隣団体との交流を通して、センターの活用につなげていくことを考えていきます。

⑪施設内での情報提供

豊中市内外の環境イベントや環境に関する情報について、収集・提供・発信しました。

具体的には、センターに寄せられたポスターやチラシの掲示・配架を行うとともに、センターを利用して行われる行事チラシを掲示しました。

市民からの問合せや、来場者による環境情報の提供などを行いました。ごみに関する問合せは一定程度ありますが、環境活動などに関する問合せは減る傾向にあり、2018 年度よりも全体の問合せ件数がやや減少しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	3	1	4	1	3	6	2	2	4	1	6	1	34 件

※各月の数字は利用件数

※センターの行事に関する問合せや当団体に対する問合せは含んでいない



＜成果や工夫したこと＞

- ・ポスターの掲示やチラシは適切に運営を行いました。家庭ごみ事業課のごみ収集車を作ることができる配布物が来場者などに人気であったため、追加の設置を依頼しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・市民からの問合せは2018年度の39件から34件へと減少しました。センターが開設した2013年の330件が最も多く、そこから年々減少傾向にあります。センターの役割が明確になったことで問合せが減ったと考えられますが、環境活動などに関する問合せの減少については分析・検討していく必要があると考えられます。

⑫メディアへの情報の発信

これまでも施設の取り組みについて、FM千里（コミュニティFMのラジオ局）の生放送、ケーブルテレビ（J:COM）の取材、「TNN 豊中報道。2」への紹介など、メディアの取材や対応を行ってきました。2019年度はメディアへの情報発信も行い、取材対応という受け身だけでなく、積極的な情報提供を心がけた結果、センターの行事などについて各種媒体にて紹介されました。

月日	内容	紹介方法
6月7日（金）	6月15日の自然ふしぎ発見クラブをFM千里が取材の問合せ	（雨天見込みのため見送りになった）
7月26日（金）	エコクッキングをFM千里が取材	「飛び出せ！のこりん隊」で生放送
12月13日（金）	小豆カイトをFM千里が取材	「飛び出せ！のこりん隊」で生放送
1月5日（日）	ふしぎ発見クラブを読売新聞社が取材	6日（月）朝刊（大阪版）に記事が掲載
1月11日（土）	地域こだわりマルシェをJ:COMが取材	J:COMチャンネル「デイリーニュース」で放送（告知・日程不明）
2月13日（木）	ちゃんぷる屋台村をFM千里でPR	「ズームアップ」（生放送）で告知
2月16日（日）	ちゃんぷる屋台村を大阪日日新聞が取材	17日（月）朝刊に記事が掲載

＜成果や工夫したこと＞

- ・ちゃんぷる屋台村は、プレスリリースを行ったことで、新聞への掲載につながりました。
- ・掲載にはつながりませんでしたが、センターの行事について「TNN 豊中報道。2」へも情報提供を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2019年度は、プレスリリースやメディアへの情報提供が一部の行事に限られたため、今後は情報提供の機会をさらに増やしていくように心がけます。

（３）地球環境の保全等に関する講座等の開催及び啓発の実施

地球環境の保全等につなげるため、関連する内容の講座や普及啓発を行いました。また、これまで豊中市が主体となっていた啓発事業を引き継いで実施するとともに、これまでも当団体が市と協働で進めてきた自然環境啓発や循環型社会推進についても取り組みました。

①環境基本計画の啓発展示

当団体はセンターの運営を通して、「豊中市環境基本計画」と「豊中アジェンダ 21」が共有する「望ましい環境像」の実現、および「豊中アジェンダ 21」の行動提案の達成をめざして事業を実施しており、環境基本計画の普及・啓発を目的とした展示を通して、市民の環境基本計画への理解を深めていくことをめざしました。

具体的には、環境基本計画の内容などについて、クイズ形式での展示を行い、解答用紙に記入・応募すると抽選で図書カードを進呈しました。あわせて、環境基本計画に関するアンケートを実施し、市民の実態把握にも努めました。

期間	内容
12月12日（木）～ 1月17日（金）	クイズでわかる環境基本計画 パネル展示とクイズの実施 環境基本計画に関するアンケートの実施 参加者アンケート 19枚回収 ※アンケート回答者の中から抽選で10人に図書カード（500円）を進呈



＜成果や工夫したこと＞

- ・環境基本計画の内容のうち、目標 2（低炭素）と目標 3（省資源・循環型社会）を主なテーマとし、マイクロプラスチックなどの事例を紹介しました。
- ・パネルの一部は、とよなか市民環境展の企画展示で使用したものを減量計画課から借りて、企画展示で啓発した内容をセンターの来場者向けにも紹介しました。
- ・2018年度はクイズが難しいという声があったため、問題のレベルを見直しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・展示内容を簡単にしましたが、まだ難しいという印象があるのか、参加人数が伸び悩みました。今後は、クイズに参加したいと思う見せ方などを検討していきます。

②地球温暖化防止講演会

地球温暖化防止の普及啓発を目的に、地球温暖化防止の講演会を開催しました。また、環境政策課と連携し、「とよなかエコ市民賞」の表彰式を同時開催しました。

2019 年度は講演会の開催に向けて、余った食品の回収を行い、当日の参加者で集まった食品のシェア（フードシェア）を行いました。

日時	内容	参加者数
2 月 11 日（火）～ 15 日（土）	余った食品の回収 パスタ、缶詰、レトルト、おかしなど約 150 点を回収	—
2 月 15 日（土） 14:20～15:30	第 1 部 第 13 回とよなかエコ市民賞表彰式・活動発表 第 2 部 来て・観て・わかる、食べ物とごみと地球温暖化の関係 講師：田中利男さん（大阪府地球温暖化防止活動推進センター） 終了後 集まった食品のシェア（フードシェア）	101 人

※参加者数は当団体の会員や講師、市職員などを含む

※時間や参加者数は第 1 部を含む



<成果や工夫したこと>

- ・地球温暖化防止の講演会（第 2 部）は、内容の企画や上映する動画の制作などで環境政策課、減量計画課と協働して実施しました。
- ・企画内容にあわせて、家庭で余った食品を回収したところ、当日の参加者も含めて、約 150 点の食品が集まり、参加者 1 人につき 3 点まで持ち帰ることができました。実施前に手順を説明したことで、トラブルなく実施できました。
- ・フードシェアを入れたことで、センターの利用者などで、これまで講演会に参加したことのない方の参加も得られました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・地球温暖化防止を考えてもらう機会として、引き続き参加しやすい内容を検討していきます。

③暮らしやモノを考える講座

家庭の暮らしにつながる講座として、2019 年度は整理収納・小豆カイト・みどりのカーテン・ミツロウラップの 4 つをテーマに実施しました。

整理収納は 2014 年度からの継続として、自分の暮らしにおける生活用品の適量を把握し、モノの手放し方を学ぶ機会とし、情報交換を通して主体的に学びあう場を提供しました。2018 年度の試行を踏まえ、2019 年度からは半年間の講座とするとともに、サークルの卒業生を対象とした情報交換の場を新たに設けました。

小豆カイトは、受付で常設販売している布なぶきんの製作者を講師として、体に優しい手作り品を通

してごみや体を考える機会とし、布なぶきんについても紹介しました。

みどりのカーテンは、緑化による省エネの推進として、花とみどりの相談所や、豊中みどりの交流会などと連携し、ゴーヤの栽培に関する講習会を開催しました。

ミツロウラップは、ミツバチの巣から採取したミツロウを使い、繰り返し使用できる食品ラップを作ることを通して、世界的な課題となっている海洋プラスチック問題を考える機会としました。

【整理収納サークル】

月日	内容	講師	参加者数	一時保育
4月18日	整理収納サークル	尾山敬子さん (整理収納アドバイザー)	4人	—
5月16日			5人	—
6月20日			4人	—
7月18日			5人	—
8月22日			5人	—
8月22日	整理収納サークル同窓会		11人	—
9月19日	整理収納サークル		5人	—
10月17日			11人	2人
11月21日			11人	2人
12月19日			10人	2人
1月16日			8人	1人
2月20日			7人	2人
3月19日			中止	
合計			86人	9人

※いずれもすべて木曜の10:00～11:30で実施（4月18日、5月16日、10月17日は9:30～新参加者へ事前説明）、同窓会のみ13:00～15:00で実施

※3月19日（木）は新型コロナウイルス感染拡大予防により開催を中止

※参加者数は講師を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・2019年度は初めて半年単位×2クールの講座とし、希望者は1回のみ継続参加できるといった仕組みで実施しました。
- ・下半期の参加者を対象に、整理収納サークルに参加したことで、自分自身の変化やごみの減量につながったかなどをたずねるアンケートを実施しました。講座を通して、参加者がモノとの付き合い方を考える機会になったことがわかりました。
- ・これまでの講座に参加し、卒業された方を対象に同窓会企画を初めて開催しました。参加者は久しぶりにセンターへ来る機会となり、また、卒業後も講座の内容を実践されておられました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・上半期の申込みがとても少なくなりました。4月上旬だと半年間の家族の予定が判明していないため、申込みに至らないことが原因と考えられます。今後は申込みの時期などを検討していきます。

【小豆カイロ】

日時	内容	講師	参加者数
12月13日（金） 10:00～11:30	寒い冬に繰り返し使える小豆カイロ作り	USAGIGUMO さん （北摂手作りの会）	16 人

※参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・布なぶきん購入者や関連するテーマの講座受講者へアンケートを取り、ニーズの高かった小豆カイロづくりをテーマとしました。
- ・小豆カイロづくりの講座には、これまで開催した布なぶきんづくりの講座よりも多くの参加があり、講座を通して布なぶきんの紹介も行うことで、結果として多くの方に布なぶきんの魅力についても伝えることができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・体にも環境にも優しい暮らしをめざしている人を対象とした、手作りを通して学ぶ講座として、布なぶきんだけでなく多様な角度からの講座企画を検討していきます。時節柄、布マスク作りなども考えられます。

【みどりのカーテン】

日時	内容	講師	参加者数
5月28日（火） 10:00～11:30	ゴーヤで緑のカーテン作り	豊中みどりの交流会 豊中緑化リーダー会	10 人

※参加者数は講師や市職員を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・センターの講座では、参加者が帰りに「とよっぴー」も買って帰ることができて便利だと、講師や参加者からの声がありました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・広報とよなか5月号では、各施設で同様の行事が掲載されており、参加者が少なくなりました。他施設とは時期をずらす、一時保育を設けるなど、参加しやすい特長づくりが必要と考えられます。

【ミツロウラップ】

日時	内容	講師	参加者数
6月13日（木） 10:30～12:30	無添加で繰り返し使えるみつろう eco ラップ作り	加藤理紗さん （たね・と・め）	13人

※参加者数は講師を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・初めてのテーマでしたが、ミツロウラップへの関心が高い参加者が集まりました。
- ・講座にあわせて、当団体の会員から、プラスチック問題などの資源循環について説明し、参加者に理解を深めてもらいました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・他の行事よりも材料代（参加費）が高いことから、今後の開催頻度について考えていきます。

④エコクッキング

2019年度は夏休みに小学生を対象とし、蛍池人権まちづくりセンターと連携して実施しました。講座では、子どもが自分で昼ごはんを作ることができる内容とし、ごみや食の循環についても学ぶ機会としました。

日時	内容	講師	場所	参加者数
7月26日（金） 10:00～13:00	夏休み 自分で作る昼ごはん	当団体の花と緑のネットワークのメンバー	蛍池人権まちづくりセンター	21人

※参加者数は当団体の会員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・2018年度のESDセミナーをきっかけに、蛍池人権まちづくりセンターとの協働での開催について打診があり、夏休みの子ども向けの講座として実施しました。蛍池人権まちづくりセンターにとっては、例年とは違った外部の専門家による講座を提供できたこと、センターとしては、これまでにアプローチできていなかった地域の子どもたちへエコクッキングの魅力を届けることができました。
- ・とよびー農園の野菜や市内で収穫された米を活用することで、豊中市のごみや食の循環の説明にもつなげました。
- ・外部の講師を予定していましたが、直前に入院することになったため、当日のサポートに入る予定であった当団体の花と緑のネットワークのメンバーを講師として開催しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・蛍池人権まちづくりセンターの運営が直営から委託に変更されるため、同じ形での継続には至りませんでした。また、エコクッキングは他の施設や団体でも同様の講座を実施しているため、今後の講座開催については見直しが必要です。

⑤リサイクル工作展

小学生が夏休み中の自由研究などで作成したリサイクル工作の作品を募集・展示し、豊中市と連携して優秀作品を表彰しました。

期間	内容
7月23日（火）～8月4日（日）	作品の募集（24件）
8月7日（水）～20日（火）	作品の展示（入賞5件）



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度に大幅に参加者が減ったことを受けて、2019年度はセンターの周辺と過去に多くの応募があった合計7小学校の全校児童に対してチラシを配布しました。2017年度の応募数46点に比べたらまだ半数以下ですが、2018年度の11点からは倍増しました。
- ・展示期間中に応募した小学生の家族や友人が作品を観に来ることは、日頃センターを利用していない市民が来場する機会となっています。
- ・家庭で不用となったものを活用する小学生の工夫と努力が感じられる作品展となっています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・近隣の小学校だけでなく、より多くの小学校にチラシを配布するなど、さらなる広報の強化を行い、2017年度以前の応募数を確保することが必要です。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防による学校の臨時休校と、学校の長期休暇の動向を踏まえながら、開催のあり方を検討していきます。

⑥自然観察会

地域の自然環境に親しんでもらうため、豊中市内の自然が残された場所で自然観察会を開催しました。

月日	内容	場所	参加者数		スタッフ数
			おとな	子ども	
4月12日（金） 9:30～12:00	春の自然観察会「島熊山で植物観察」	島熊山緑地	15人	0人	2人
7月28日（日） 9:30～11:30	千里川の水生生物観察会	千里川中流域	19人	20人	12人
9月20日（金） 18:00～20:00	秋の夜の鳴く虫観察会	服部緑地	18人	13人	4人
2月9日（日） 9:30～12:00	冬の野鳥観察会	服部緑地	23人	7人	9人
合計	4回		75人	40人	27人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度の参加者は87人でしたが、2019年度は115人と大幅に増加しました。特に、水生生物観察会が昨年度より多くなっています。
- ・春の自然観察会では、近年実施していなかった島熊山をテーマに開催しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・天候に左右される影響があるものの、引き続き、広報や内容の充実を検討していきます。

⑦自然学習講座

豊中の自然環境の現状や保全についての理解を深めるため、専門家を講師に講座を開催しました。

月日	テーマ	講師	場所	参加者数	スタッフ数
6月27日(木) 14:00～16:00	クビアカツヤカミキリ被害の現状と対策	金子修治さん(大阪府立環境農林水産総合研究所主任研究員)	環境交流センター	12人	2人
2月16日(日) 14:00～16:00	特定外来生物(植物)の現状と対策	武田義明さん(神戸大学名誉教授)	中央公民館	20人	2人
3月15日(日) 14:00～16:00	不思議いっぱいハチの世界	松本吏樹郎さん(大阪市立自然史博物館主任学芸員)	中央公民館	中止	
合計	2回			32人	4人

※3月15日(日)は新型コロナウイルス感染拡大予防により開催を中止

※当団体の自然部会が実施(スタッフ数は自然部会の担当者の人数)



<成果や工夫したこと>

- ・被害が言われつつあるクビアカツヤカミキリについて、いち早くテーマとして取り上げ、参加者と情報を共有しました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防による中止もあり、参加者数が大幅に減少しました。多くの参加を得るために、引き続きテーマの設定、開催時期などについて検討していきます。

⑧自然ふしぎ発見クラブ

豊中の自然にふれあい、体験できる機会として、5歳～小学生とその保護者を対象に行いました。

月日	テーマ・内容	場所	参加者数		スタッフ数
			子ども	おとな	
4月20日(土) 9:30～12:00	竹のふしぎ発見と地下茎の観察	千里緑地	37人	42人	11人
6月16日(日) 10:00～11:30	千里川・ヒメボタル保全区域の自然観察	春日町ヒメボタル特別緑地保全地区ほか	2人	4人	4人
7月28日(日) 18:30～20:30	公園でセミの羽化を見てみませんか	千里中央公園	29人	28人	4人

9月21日(土) 9:30~12:00	バッタなど秋の虫観察会	服部緑地	18人	13人	6人
10月19日(土) 10:00~12:00	秋の待兼山とマチカネワニ	阪大豊中キャンパス～阪大博物館	6人	10人	4人
1月5日(日) 10:00~12:00	冬の草木と七草がゆの試食	大曽公園、くらしかん	19人	13人	7人
合計	6回		111人	110人	36人

※6月16日開催分は、雨天により6月15日(土)から延期

吹田市で拳銃が奪われる事件が発生したことにより早めに終了

※7月28日開催分は、悪天候のため7月27日(土)から延期

※9月21日開催分は、「服部緑地の自然を育てる会」の後援

※当団体の自然部会が実施(スタッフ数は自然部会の担当者の人数)



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度の参加者は200人でしたが、2019年度は221人と増加しました。竹のふしぎ発見、セミの羽化、バッタ、七草がゆという毎年開催しているテーマは参加者が多く、行事として定着しています。
- ・ヒメボタル保全区域や待兼山は、参加者が少なかったものの、自然ふしぎ発見クラブとしてはあらたなテーマで実施しました。

＜これからの方向性(現状の課題を含む)＞

- ・定着しているテーマと、新たにテーマを組み合わせながら、引き続き子どもたちが豊中の自然に親しみ、学ぶ機会を作っていきます。

⑨自然環境の保全活動

豊中市内に残された豊かな自然環境を残していくため、残された自然を歩く【豊中の里地探訪】や、【豊中の自然を守る】活動の体験を実施し、自然環境の保全に対する理解を深めました。

【豊中の里地探訪】

月日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
10月30日(水) 9:30~12:00	旧穂積村から野田堤を訪ねて	服部天神駅～野田町	25人	5人

※当団体の自然部会が実施(スタッフ数は自然部会の担当者の人数)

【豊中の自然を守る】

月日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
11月25日（月） 9:00～12:00	猪名川自然林の保全作業と自然観察	猪名川自然林	15人	2人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



＜成果や工夫したこと＞

- ・里地探訪はウォークと観察を兼ねた企画として、2018年度の里山探訪に引き続き多くの参加を得ることができました。
- ・里地探訪では、これまでに機会が少なかった豊中市南部の自然について参加者に知ってもらう機会としました。
- ・猪名川自然林での保全活動の体験は、センターの事業としては初めての試みでしたが、参加者に豊中の自然保全の現状を知ってもらう機会となりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・里地探訪のように、ウォークと観察を兼ねた行事は人気が高いことから、引き続き場所を変えながらより多くの方に豊中の自然を知っていただく機会として継続していきます。

⑩制服・学用品のリユース

豊中市内で市民活動に取り組む有志などで構成する「おさがりの会」と連携し、まだ使える制服や学用品をセンターで回収し、必要とする人へのマッチングを行いました。

日時	内容	スタッフ数
5月1日（祝）～ 31日（金）	制服・学用品の回収 ランドセル、制服・体操服、ピアニカ、文具など約60点	—
7月21日（日） 13:00～15:30	制服・学用品の販売（親子ぐるぐるフェス） ランドセル、制服・体操服、文具など20点以上	3人
12月10日（火）～ 1月13日（祝）	制服・学用品の回収 制服、楽器、文具など約55点	—
1月19日（日） 13:00～15:30	制服・学用品の販売（親子ぐるぐるフェス） 制服・体操服、楽器、文具など約40点	3人
随時	生活困窮者支援の関係者を通じて、ランドセルなどを提供	—



<成果や工夫したこと>

- ・制服・学用品の回収期間で、制服やランドセルなどが多数寄せられ、親子ぐるぐるフェスを通じて、市民へ安価に提供し、資源の循環につなげることができました。
- ・生活支援の関係者を通じて、ランドセルを必要としている方へ個別に提供するといった対応を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・制服や体操服は古いデザインのものであれば市民への提供ができず、場合によっては処分することになってしまっています。
- ・制服やランドセルは無償での回収ではなく、提供者に対して何らかの還元ができるような仕組みを検討していくことも考えられます。

⑪施設間連携スタンプラリー

豊中市内で指定管理等により運営している各分野の施設と連携し、施設間の相乗効果を目的に、施設間でのスタンプラリーを実施しました。「SDGs スタンプラリー」と題して、SDGs を共通テーマとしました。なお、実施に際しては ESD とよなか連絡会議の場でも検討を行い、ESD とよなか連絡会議も共催としました。

日時	行事名	場所	参加者数
9月7日（土） 10:00～17:00	SDGs スタンプラリー（その1）	とよなか国際交流センター、とよなか男女共同参画推進センターなど	114人
9月10日（火）～ 10月10日（木）	SDGs スタンプラリー（その2）	環境交流センター他6ヵ所	36人
合計	2回		180人

※参加者数はいずれもゴールした人数



＜成果や工夫したこと＞

- ・スタンプラリーのスタンプは、各施設のテーマとあわせた SDGs のアイコンとし、その施設と SDGs とのつながりの解説もあわせて掲示しました。
- ・その 2 では、2018 年度から実施方法を見直し、ESD とよなか連絡会議の構成団体が運営する 6 施設を期間限定で巡り、3 つ以上の施設でスタンプを集めると景品と交換できるようにしました。
- ・その 2 の実施では、スタンプラリーのゴール（景品交換場所）をセンターとし、参加者は必ずセンターに来てもらうような仕掛けとしました。また、景品は、2017 年度の ESD セミナー（ちゃんぷる屋台村）の残りや、新たに寄付されたものを活用しました。
- ・いずれも未就学児づれの親子からシニアまで多様な世代の参加があり、参加者数は 2018 年度から大幅に増加しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・スタンプラリーを楽しみながら市内の施設を巡る機会としてはよかったですが、SDGs についてどこまで認知してもらえたかは疑問が残りました。
- ・ESD とよなか連絡会議の協力を得て実施できたため、引き続き協力が得られるかは調整が必要です。また、実施の際は、施設数を増やすのか、スタンプラリーのテーマをどのように設定するのかといった点も検討していきます。

⑫ESD セミナー

持続可能な地域づくりをめざして、市民に気軽に参加してもらえるようなセミナーを企画しています。2019 年度は、ESD リソースセンター WEB に取組みが掲載されている団体と市民公益活動団体に登録する団体に募集し、第 3 回のちゃんぷる屋台村などを開催しました。

なお、これまでの経過を踏まえて、ESD とよなか連絡会議が共催し、とよなか ESD ネットワークが受託運営する豊中市市民活動情報サロンの協力として実施しました。

日時	内容	場所	参加者数
2 月 4 日（火） 14:00～16:00	ちゃんぷるカフェ こどもの未来を考えよう	とよなか国際交流センター	20 人
2 月 16 日（日） 11:00～15:00	食べて、学んで、体験できるちゃんぷる屋台村	とよなか国際交流センター、とよなか男女共同参画推進センター	361 人
合計	2 回		381 人

※参加者数は当団体の会員や出店者、市職員などを含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・ESD とよなか連絡会議との共催で、2014、2017 年度に開催したちやんぷる屋台村の 3 回目を実施しました。これまでで最も多くの来場者がありました。
- ・今回は初めてメインテーマを設定することとし、テーマの「循環」を示して出展者を募集することで、テーマに関連した活動をしている団体やお店が出展し、テーマに関心のある来場者が多くありました。また、出展団体の協力を得て実現したマイボトル持参による特典やリユースカップでの飲料提供の実施、古本寄付ばすとの設置など、来場者が参加できる小さな実践の場を設けることもできました。
- ・今回は新たに市民活動情報サロンの協力も得て、市民公益活動団体に登録する 7 団体から新たに出演がありました。
- ・2017 年度のちやんぷる屋台村では、出展団体の活動内容を発信する機会を増やしたいという声があったため、それを反映してステージ発表の場を設けました。パン屋や農家、ネパールの活動支援をしている団体のお話は、来場者だけでなく、その場に出展している団体も学ぶことが多く、互いの活動をより深く知りあう機会となりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・ちやんぷる屋台村としては開催頻度や規模、運営ボランティアの募集など、今後の展開について検討が必要です。ESD セミナーとしては、2020 年度に違う企画を検討していきますが、ESD とよなか連絡会議との連携により、引き続き各団体の特長を活かした内容で進めていきます。

⑬キッズクラブ

「ぴったんこ隊 mini」と題して、小学 1 年生～4 年生を対象に、世界や地域の環境を考えることをテーマとした、参加・体験型の連続講座を実施しました。講座は大阪大学の環境サークル GECS が主体となってプログラムを実施し、当団体で広報や参加者、プログラム先との調整などを担いました。また、講座の開催を通じて、大学生の環境活動の場を提供し、大学生の成長を支援する機会にもしました。

なお、講座は夏休みと春休みの期間にそれぞれ計画しましたが、春休みは新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となりました。

日時	内容	場所	参加者数
8 月 10 日（土）14:00～16:00	資源について考えよう	環境交流センター	28 人
8 月 22 日（木）9:00～17:00	ATC グリーンエコプラザに行こう	ATC グリーンエコプラザ	23 人
9 月 22 日（日）14:00～16:00	天竺のはらっぱを探検しよう	環境交流センター	24 人
10 月 6 日（日）14:00～16:00	自分たちにできることを考えよう	環境交流センター	30 人
3 月 24 日（火）15:00～17:00	身近なごみ問題について考えよう	環境交流センター	中止
3 月 27 日（金）14:00～16:00	エコショップ見学	コープ桜塚	中止
3 月 31 日（火）14:00～16:00	周りの人にごみ問題を伝えよう	環境交流センター	中止
合計	4 回		105 人

※9 月 22 日（日）は天候不良が見込まれたため場所とプログラムを変更

※3 月分は新型コロナウイルス感染拡大予防により開催を中止

※参加者数はスタッフを含む

※8～10 月の小学生の参加登録者数は 12 人



<成果や工夫したこと>

- ・夏のプログラムでは、市外の施設（ATC グリーンエコプラザ）の見学を通して、企業が環境問題にどのように取り組んでいるかを実際に学ぶ機会となりました。
- ・プログラムの質の維持や学生の学びの場として、大学生の企画したプログラムに対して事前のリハーサルや毎回のプログラム実施後のふりかえりの場を設けて、助言や支援を行いました。
- ・屋外での実施に際しては、開催前後に保護者へ手紙を渡すとともに、後日に当日の様子をブログで報告しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・企画する大学生の関心や知識から、テーマ設定に偏りがあり、リピーターの参加者にとっては同じような内容の学びとなってしまっています。今後は、狭く深くテーマを追求でき、繰り返し参加しても学びが深まるような講座の企画も考えられます。
- ・小学生への学習効果を高めるためにも、講座を実施する大学生に対して、プログラム作りや子どもたちとの関わり方について、引き続き丁寧な助言や支援が必要です。

⑭サイエンスカフェ

科学・化学実験や科学・化学にまつわる話題を通して、環境問題や生活とのつながりについて考える場を作りました。多様な世代が考える機会を作るため、子ども対象と大人対象の両方を実施しました。2019年度は子ども対象を連続講座とし、フィールドワークを盛り込みました。

なお、大人対象の講座は新型コロナウイルス感染拡大予防により中止となりました。

日時	対象	内容	講師	場所	参加者数
8月18日(日) 13:00～15:30	子ども	ぐるぐるめぐる水 川 や湖を守るためにできること	黒河内繁美さん (Wakka)	環境交流センター	33人
8月19日(月) 9:00～17:00			松沢松治さん(漁師)	滋賀県野洲市 菖蒲漁港	22人
2月26日(水) 10:00～12:00	大人	成分で考える体や環境 にいいコスメ	梁井結さん(100%脱石 油メイクアップアドバイザー)	環境交流センター	中止
合計		2回			55人

※2月26日は新型コロナウイルス感染拡大予防により開催を中止

※8月18日の参加者数は講師や見学の保護者を含む

※8月19日の参加者数はスタッフを含む



<成果や工夫したこと>

- ・夏休みの回は、小中学生を対象とした 2 日間の連続講座とし、「水の循環」をテーマとした事前学習と琵琶湖でのシジミ採りを組み合わせて内容を充実させました。
- ・夏休みの 1 日目は、保護者の同伴を歓迎としたことで、保護者も多く参加があり、子どもだけでなく保護者と一緒に体験できる機会となりました。
- ・事前学習で水の循環やせっけんと合成洗剤の違い、水に与える影響などを学んでいたため、シジミ採りで漁師さんからの話を聞く際に、子どもたちから多くの質問が出て、学習効果が高まりました。
- ・参加希望者（申込者）の中に、全盲の小学生がいたため、実験では事前に保護者に内容等の情報を提供して実験と一緒に補助してもらうこと、琵琶湖では保護者にも同伴してもらうことなどにより、他の参加者と同じプログラムに参加してもらうことができました。
- ・大人向けは、ナチュラルクリーニングをテーマに数年間実施していたため、テーマをコスメへ変更しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・夏休みの回は、小学 1 年生から中学生を対象としましたが、参加者の年齢により、講座内容の理解度や満足度に差があったため、対象年齢や講座内容を検討していく必要があります。
- ・シジミ採りは暑い日であったため、体調不良のため集合場所で参加できなくなる子や、移動中に鼻血が出る子などがいたため、子どもの体調管理により気をつける必要があります。
- ・バスに乗れる定員の関係で、スタッフの人数が少なくなってしまったため、今後のサポート体制の充実が必要です。

(4) 地球環境の保全等に関する会議、研修、催し等へのセンターの施設の提供

地球環境の保全等を推進するため、市民・団体・事業者に施設貸出を行うとともに、環境活動を支援する取り組みを行います。

①施設でのイベント掲示板の設置

センターを利用して市民や団体が実施する環境イベント等について、チラシ等を貼ることができる専用の掲示板を設置して、来場者への PR を促進しました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・団体がセンターを利用して環境イベントを実施する際、チラシ等の持参が少ないため、掲示板の活用が限られています。引き続き貸室手続きの際などに PR をしていきます。

②コピー、大型プリンター、印刷機、紙折り機の利用

来場者がコピーやポスターの出力をできるようにすることで、打合せや貸室などの利用を促進するとともに、活動の一環で作成したパネルや横断幕などの出力をサポートしました。2018 年度からは新たに紙折り機を導入し、希望者に利用を無料で提供しています。

なお、利用件数は 2018 年度と比べて、コピーが 2%増、大型プリンターが 32%減、印刷機は 40%増でした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
コピー	13	9	11	15	11	12	6	12	15	16	15	1	136 件
大型プリンタ	1	2	1	0	1	3	5	2	3	3	3	2	26 件
印刷機	6	5	7	6	4	7	7	6	3	1	3	1	56 件

※各月の数字は利用件数

※新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため、利用は 3 月 8 日（日）まで



＜成果や工夫したこと＞

- ・印刷機を定期的にご利用の方が複数おられ、利用が定着しつつあります。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館中に、大型プリンターの利用に関する問合せが複数ありました。同程度の条件で実施できる場所が限られていることもあり、一定のニーズがあることがわかりました。

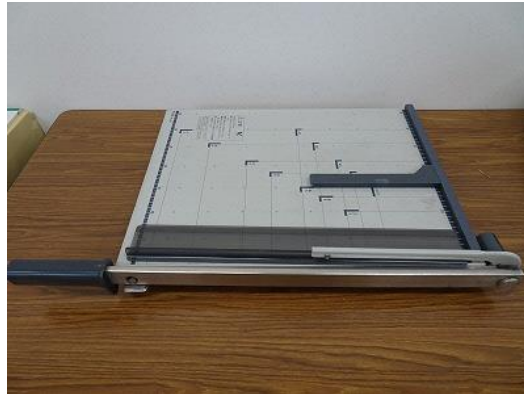
＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・件数の増減はあるものの、いずれも一定のニーズが認められるため、今後も引き続き実施していきます。

③打合せなどに伴う物品の貸出し

ロビーや会議室で打合せや作業を行う際、円滑に進めることができるように、関連する物品などを提供しました。傘は「貸し傘」として「そね 21 の会」と連携して取り組みました。

- ・裁断機
- ・ラミネーター（ラミネートフィルムは希望者に有料）
- ・貸傘
- ・リユースカップ（会議室の利用時など）



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・貸傘やリユースカップの利用は一時期よりも減っているため、貸出しをもっと PR するようにしていきます。

（５）その他

①回収拠点

リユース・リサイクルのための回収拠点として、以下の物品を回収しました。なお、傘はそね 21 の会と、ベルマークは南桜塚小学校 PTA と連携により回収します。

回収品	対象	対応
ペットボトル	主に他へ提供する物品	豊中市の委託先が週 2 回程度回収
インクカートリッジ		豊中市のインクカートリッジ里帰りプロジェクトとして実施 10 月 10 日（木）、3 月 1 日（日）に各 1 箱を回収先へ送付
使用済み小型家電		豊中市が週 1 回程度回収
蛍光灯・電池類		豊中市が週 1 回程度回収
ベルマーク		回収したベルマークを地域へ提供 6 月 4 日（火）、7 月 2 日（火）、11 月 21 日（木）、2 月 20 日（木）に南桜塚小 PTA へ提供
傘	主にセンターで活用する物品	貸し傘用として利用

※傘は 3 月中に「そね 21 の会」への提供を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館のため提供できなかった



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2018 年度途中からペットボトルの回収を週 2 回に増やしてもらいましたが、それでも回収ボックスに入りきらないことが多いです。脱プラスチックの観点から、回収ボックス周辺で何らかの啓発を行っていくことも考えられます。

②不用品交換コミュニティボードの運営

2012 年度までリサイクル交流センターが実施していた不用品交換コミュニティボードを引き継ぎ、センター内での掲示とインターネットでの掲載を行いました。また、近隣市で同様の仕組みを運営している施設の情報を、ホームページに掲載して紹介しました。

【「譲りたい」に関する応募・結果】

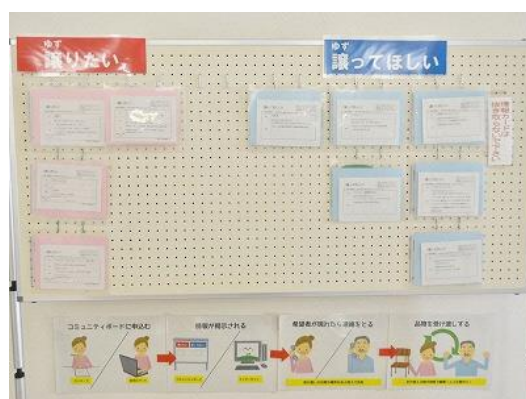
	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	3件	0件	0件	1件	0件	0件	0件
5月分	3件	1件	0件	1件	0件	0件	0件
6月分	4件	2件	1件	1件	0件	0件	0件
7月分	2件	0件	0件	0件	0件	0件	1件
8月分	6件	4件	1件	0件	0件	1件	3件
9月分	13件	8件	7件	1件	0件	0件	1件
10月分	8件	2件	2件	0件	1件	0件	0件
11月分	6件	1件	2件	0件	0件	0件	0件
12月分	7件	3件	0件	2件	0件	0件	2件
1月分	5件	0件	1件	1件	1件	1件	0件
2月分	4件	2件	2件	0件	0件	0件	0件
3月分	2件	0件	0件	1件	0件	0件	0件
年度通算	26件	23件	16件	8件	2件	2件	0件

※2018年度から繰り越した掲出3件、2020年度へ繰り越した掲出1件

【「譲ってほしい」に関する応募・結果】

	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	1件	0件	0件	1件	0件	0件	0件
5月分	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
6月分	5件	4件	0件	0件	0件	0件	0件
7月分	10件	5件	0件	0件	1件	0件	0件
8月分	9件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
9月分	9件	0件	1件	3件	0件	0件	0件
10月分	5件	0件	0件	5件	0件	0件	0件
11月分	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
12月分	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
1月分	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
2月分	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
3月分	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
年度通算	12件	11件	1件	9件	1件	0件	0件

※2018年度から繰り越した掲出1件、2020年度へ繰り越した掲出1件



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度は、譲りたいが受付18件・成立3件、譲ってほしいが受付20件・成立3件でしたが、2019年度は、譲りたいが受付23件・成立16件で、申込みだけでなく成立件数が大幅に増加しました。
- ・環境政策課と協議して、2月の広報とよなかに紹介記事を掲載しました。この記事を見て、地域で活動するグループがメンバーに情報を紹介したいといった申し出がありました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・引き続き受付件数が低い位置で横ばいとなっており、2015年度の件数（譲りたいが54件、譲ってほしいが37件）と比べて激減しています。今後の方向性について検討する必要があります。
- ・2月の広報とよなかに紹介記事を掲載しましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館の影響があったのか、受付件数の増加には結び付きませんでした。
- ・豊中市の別の問合せ先からセンターを紹介されての問合せが多いのですが、その大半が不用になった物品を自宅から引き取ってほしいというもので、取組みとのミスマッチが多くなっています。

③パソコンの設置

ロビーにパソコン1台を設置し、来場者が環境情報のインターネット検索や資料作成、ポスター出力の際などに利用できるようにしました。1月上旬からパソコンを更新しました。

なお、複数の利用者による不正利用が確認され、利用者に対して複数回の注意を行ったが改善されなかったため、2月27日に環境政策課へ状況を報告し、環境政策課の指示で2月28日から利用を一時停止しました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営をしましたが、特記すべき事項は特にありません。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・環境政策課との協議により、パソコンの設置は2019年度末をもって終了することとなりました。

○当初の事業計画以外の取組み

年度当初の事業計画では予定していませんでしたが、家庭ごみ事業課や事業者と連携して、回収や配布の取組みを行いました。

期間	内容
8月6日（火）～ 31日（土）	こども服の回収 70～160cmのこども服 約400枚を回収し、家庭ごみ事業課へ提供
12月10日（火）～ 1月13日（祝）	こども服の回収 70～160cmのこども服 約600枚を回収し、家庭ごみ事業課へ提供

1 月 22 日（水）～ 29 日（水）	カレンダーの無料配布 豊中市小売商業団体連合会ほか提供のカレンダー 約 70 点を配布
-------------------------	--

4. 施設の利用状況

センターの年間の来場者数は 18,354 人で、2018 年度の 18,458 人から 104 人減少しました。1 月末の時点では、過去に最も来場者数が多かった 2016 年度の 19,083 人をはるかに超えて 20,000 人に迫るような勢いでしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館などにより、2018 年度よりも減少する結果となりました。

それでも、最高評価サービス水準の 18,000 人を超え、12,000 人という目標値と比べると約 153%という安定した来場者数が得られています。また、環境交流センター開設前の 2012 年度と比べると、リサイクル交流センターが 6,621 人、環境情報サロンが 4,857 人の来場者数であったことから、2012 年度のリサイクル交流センターと比べて約 277%、両施設の合計と比べて約 160%となっています。

会議室等の稼働率は 2018 年度の 67.4%から 66.3%へと微減しましたが、最高評価サービス水準の 66%を達成しました。ただし、新型コロナウイルス感染拡大予防による利用の自粛呼びかけを開始する前日（2 月 20 日）までの稼働率と比較すると 67.6%となり、反対に微増となります。実績値で見ると、展示スペースは利用が大幅増（76.1%→82.4%）でしたが、会議室 1（65.7%→60.0%）・会議室 2（60.5%→56.6%）ともに利用が減少しました。

会議室等の申込状況と利用件数は、どちらも大幅に減少しました（申込状況 524 件→458 件、利用件数 486 件→422 件）。新型コロナウイルス感染拡大予防による利用の自粛や臨時休館の影響による部分が大きいですが、2018 年度と 1 月末時点での状況を比較すると、いずれも微減しており（申込状況 457 件→423 件、利用件数 398 件→386 件）、会議室の稼働率とリンクしています。

①来場者数

単位：人	一般		会議室等利用				合計	(参考) 昨年度
			環境目的		環境目的以外			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
4 月	326	429	212	497	1	24	1,489	1,529
5 月	374	466	134	209	210	128	1,521	1,753
6 月	354	645	293	488	3	35	1,818	1,353
7 月	406	500	310	373	5	22	1,616	1,354
8 月	426	536	445	518	0	0	1,925	1,498
9 月	360	517	192	264	121	180	1,634	1,895
10 月	433	601	224	455	1	26	1,740	1,519
11 月	422	565	235	385	7	24	1,638	1,422
12 月	393	547	216	384	3	40	1,583	1,480
1 月	456	482	234	366	8	14	1,560	1,389
2 月	409	476	290	442	0	0	1,617	1,761
3 月	64	116	16	11	2	4	213	1,505
年度通算	4,423	5,880	2,801	4,392	361	497	18,354	18,458

※3 月 10 日～31 日は新型コロナウイルス感染拡大予防のため臨時休館

②会議室等の稼働率

<実績値>

	会議室 1	会議室 2	展示 スペース	施設全体	(参考) 前年同月
4 月	53.8%	50.0%	11.5%	38.5%	50.0%
5 月	59.3%	55.6%	81.5%	65.4%	48.7%
6 月	69.2%	69.2%	100.0%	79.5%	83.3%
7 月	61.5%	42.3%	100.0%	67.9%	71.8%
8 月	66.7%	44.4%	74.1%	61.7%	55.6%
9 月	44.0%	60.0%	80.0%	61.3%	76.4%
10 月	59.3%	63.0%	96.3%	72.8%	65.4%
11 月	80.8%	65.4%	100.0%	82.1%	82.1%
12 月	62.5%	70.8%	79.2%	70.8%	61.1%
1 月	54.2%	58.3%	95.8%	69.4%	55.6%
2 月	60.0%	52.0%	88.0%	66.7%	83.3%
3 月	14.3%	28.6%	85.7%	42.9%	76.5%
年度通算	60.0%	56.6%	82.4%	66.3%	67.4%

※3 月 10 日～31 日は臨時休館のため、3 月 8 日までの値

<利用自粛呼びかけ開始前日（2 月 20 日）までの実績値>

	会議室 1	会議室 2	展示 スペース	施設全体
2 月	76.5%	58.8%	100.0%	78.4%
年度通算	62.2%	57.8%	82.9%	67.6%

※2 月は 2 月 1 日～20 日までの実績値

（2 月 21 日～3 月 8 日は貸室を利用できるものの、利用自粛を呼びかけたため）

<利用自粛呼びかけ開始以降（2 月 21 日以降）の利用中止分を含んだ値>

	会議室 1	会議室 2	展示 スペース	施設全体
2 月	68.0%	52.0%	88.0%	69.3%
3 月	69.2%	61.5%	84.6%	71.8%
年度通算	62.5%	57.6%	82.5%	67.5%

※利用自粛を呼びかけた期間（2 月 21 日～3 月 8 日）、臨時休館（3 月 10 日～31 日）に、新型コロナウイルス感染症の影響により、予約・仮予約されていた利用が取りやめになった分も「利用があった」とものと仮定し、3 月 31 日までの算出を行ったもの

※～2 月 20 日は実績値、2 月 21 日～3 月 8 日は実績値＋取りやめ分、3 月 10 日～31 日は取りやめ分

③会議室等の申込状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	74	25	38	45	29	41	44	45	47	35	26	9	458件
貸室	72	24	38	43	28	41	44	44	47	33	24	9	447件
指定	19	5	6	13	7	9	7	3	21	7	7	2	106件
自主	1	1	3	6	1	1	3	2	1	0	0	0	19件
環境	46	16	26	22	19	30	32	35	22	23	16	7	294件
環境外	6	2	2	2	1	1	2	4	3	3	1	0	27件
福祉	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
備品	32	12	17	25	20	20	20	25	26	18	14	4	233件
指定	9	4	4	7	4	5	4	2	12	4	3	0	58件
自主	0	0	2	5	1	0	3	2	0	0	0	0	13件
環境	19	8	11	13	14	15	12	17	11	12	11	4	147件
環境外	4	0	0	0	1	0	1	4	3	2	0	0	15件
福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
キャンセル	2	0	4	0	0	1	2	1	3	1	12	13	39件

※合計は、備品などの追加手続きも含んだ承認の件数

※キャンセルのうち、使用料の還付請求は1件

④会議室等の利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	38	39	48	37	36	30	42	42	43	31	30	6	422件
貸室	38	39	48	37	36	30	42	42	43	31	30	6	422件
指定	8	9	10	8	14	8	7	3	14	9	9	3	102件
自主	0	1	2	3	6	1	2	3	1	0	0	0	19件
環境	28	24	33	23	16	18	32	33	23	20	21	2	273件
環境外	2	5	3	2	0	3	1	3	5	2	0	1	27件
福祉	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
備品	17	14	23	18	24	15	23	17	24	16	17	1	209件
指定	3	5	7	5	8	4	5	1	8	5	5	0	56件
自主	0	0	2	1	6	0	2	3	0	0	0	0	14件
環境	13	7	14	12	10	10	15	11	11	10	12	1	126件
環境外	1	2	0	0	0	1	1	2	5	1	0	0	13件
福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件

※追加手続きの有無に関わらず、1件とカウント

⑤使用料（利用料金）の収入の状況

月	合計		納付分		庁内振替	
	件数	金額（円）	件数	金額（円）	件数	金額（円）
4 月	5	8,600	5	8,600	0	0
5 月	2	21,800	2	21,800	0	0
	1	1,200	1	1,200	0	0
6 月	1	1,800	1	1,800	0	0
7 月	4	8,400	4	8,400	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0
9 月	2	18,400	2	18,400	0	0
10 月	2	5,300	2	5,300	0	0
11 月	4	15,700	4	15,700	0	0
12 月	3	13,200	3	13,200	0	0
1 月	3	8,500	2	7,300	1	1,200
2 月	0	0	0	0	0	0
3 月	1	900	1	900	0	0
合計	28	103,800	27	102,600	1	1,200

※備品等の追加のみの場合も 1 件と数えている

※5 月の上段は、4 月後半の徴収分を平成 31 年 4 月分として 5 月に納付したもの

5 月の下段は、5 月中の徴収分を令和元年 5 月分として 5 月に納付したもの

※還付 1 件（3,400 円）があったため、2019 年度の決算額は 100,400 円

⑥施設外での実施に伴う参加者数

内容	参加者数	備考
身近な生き物調査	26 人	調査活動（センター外での実施分のみ）
エコクッキング	21 人	1 回
自然観察会	142 人	4 回
自然学習講座	22 人	1 回（センター外での実施分のみ）
自然ふしぎ発見クラブ	257 人	6 回
自然環境の保全活動	47 人	2 回
施設間連携スタンプラリー	114 人	1 回（センター外での実施分のみ）
ESD セミナー	381 人	2 回
サイエンスカフェ	22 人	1 回（センター外での実施分のみ）
合計	1,032 人	

※内容はすべて「3. 管理運営業務の実施状況」に記載

※ここでのいう参加者数とは、センター内で実施したと仮定したら来場者数にカウントされる人数を意味しているため、スタッフ数も含んでいる。そのため、屋外で実施した場合もセンターで集合・解散やゴールし、①来場者数にカウントされているものは含んでいない

5. 管理運営業務に係る経費の収支状況

2019 年度 豊中市立環境交流センター指定管理業務 収支決算書

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

(単位:円)

収入						
項目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
指定管理委託料	15,750,500					
事業収入	410,084	65,400	0	137,100	0	207,584
収入合計	16,160,584					
支出						
科目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
人件費						
賃金手当	8,686,392					
通勤交通費	209,620					
法定福利費	1,293,289					
退職金共済制度掛金	237,000					
福利厚生費	22,900					
賃金振込手数料	31,910					
人件費計	10,481,111					
事業費						
外注費	1,306,279	0	0	0	0	1,306,279
備品費	0	0	0	0	0	0
図書費	25,602	0	25,602	0	0	0
印刷費	264,953	23,540	30,845	67,585	0	142,983
通信運搬費	388,536	39,893	2,910	43,433	2,196	300,104
消耗品費	396,393	31,134	19,837	84,238	5,000	256,184
旅費交通費	95,040	13,600	44,100	34,940	2,400	0
諸謝金	409,164	79,400	0	329,764	0	0
保険料	21,420	0	1,200	14,820	0	5,400
賃借料	364,560	0	0	0	0	364,560
光熱水費	962,593	0	0	0	0	962,593
租税公課	800	0	0	0	0	800
雑費	72,439	14,794	610	47,765	3,746	5,524
事業費計	4,307,779	202,361	125,104	622,545	13,342	3,344,427
支出小計	14,788,890					
消費税及び地方消費税	667,138					
収支差額	704,556					

(参考) 施設管理の費用内訳

内容	科目	金額	備考
電話代	通信運搬費	182,569	
阪急緊急用専用回線使用料	通信運搬費	32,767	
インターネット利用料	通信運搬費	83,062	プロバイダ、ドメイン
郵便代	通信運搬費	1,706	
リース代	賃借料	364,560	複合機、大型プリンター、紙折機 印刷機（再リース）
コピー代	印刷費	142,983	
消耗品	消耗品費	256,184	
修繕費用	外注費	201,080	消防設備受信機のバッテリー交換 誘導灯のバッテリー交換 正面玄関のロールスクリーンの修繕・交換 駐輪場の伸縮扉の受け金具の修繕 郵便ポストの修繕・交換 会議室の扉（2 か所）の修繕
その他の修理	外注費	2,100	自転車修理
電気代	光熱水費	931,482	
水道代	光熱水費	31,111	
保険	保険代	5,400	賠償責任保険
印紙代等	租税公課	800	印紙代
清掃委託	外注費	378,564	
ごみ処理委託	外注費	17,615	
機械警備委託	外注費	209,280	
消防用設備保守点検	外注費	66,000	
空調設備保守点検	外注費	316,100	
自動扉保守点検	外注費	115,540	
振込手数料（外注費他）	雑費	5,524	
合計		3,344,427	

6. 自主事業の実施状況

(1) 施設の活用や事業への参加

①飲食物の販売

来場者が気軽に利用できるように、希望者に対して飲料やおやつなどを有料で提供しました。また、この飲食物の提供を通して、食べ物や飲み物といった身近なものから環境について考えてもらう機会としました。

飲料は環境に配慮したリユースびんの冷たいものと、リユースカップを利用したセルフサービスの温かいものとし、コーヒーと紅茶は有機栽培フェアトレードのものを提供しました。おやつは豊中市小売商業団体連合会や豊中市内の福祉作業所と連携し、豊中のお店の商品や添加物の少ないものなどを提供しました。

②常設での物品販売

当団体は地球環境を守るとよなか市民行動計画「豊中アジェンダ 21」を推進する活動に取り組んでおり、活動に関連する物品をセンターで希望者に常設販売しました。具体的には、竹炭・竹酢液・竹製品、とよっぴー、とよっぴーで育てた豊中産の野菜（不定期）、機密書類リサイクルのトイレットペーパー、各種冊子などで、これらの販売を通して「豊中アジェンダ 21」の普及・促進に努めました。

また、来場者の利便性向上に資する物品についても、希望者に常設販売しました。具体的には、布ナプキン、エコたわしなどで、これらは地域の団体と連携し、各団体が作ったものを取り扱いました。

③物品の回収

リユース・リサイクルの一環として、使用済み切手・未使用切手・書き損じハガキについて、センターで回収しました。回収した物品は他への売却等を行い、売却費用は「豊中アジェンダ 21」の普及・促進に活用しました。

④リユースバザーへの参加

指定管理事業として実施するリユースバザーに、当団体としても出店しました。当団体では、会員の家庭で使わなくなった衣服や生活用品を集めて安く販売することで、指定管理者の組織としてもリユースに努めました。なお、2019 年度はリユースバザーが 6 回行われましたが、そのうち 2 回に出店しました。

⑤地域こだわりマルシェ＆野菜市場への参加

指定管理事業として実施する地域こだわりマルシェ＆野菜市場に当団体として出店し、とよっぴーで育てた豊中産の野菜や、竹炭・竹酢液・竹製品などを販売しました。販売時に購入者との交流を通して、地産地消および循環型社会の推進に努めました。なお、2019 年度は地域こだわりマルシェ＆野菜市場が毎月（計 11 回）行われましたが、会員が中心となり、すべての開催で出店しました。

(2) 全体活動

①学習会の開催

2018 年度に「第 3 次豊中アジェンダ 21」が策定されたことにあわせて、同計画に書かれた取り組みの展開や推進組織の発展について、外部の専門家を講師に招き、学習会の開催を計画に盛り込んでいましたが、実施には至りませんでした。

②環境展の展示

11月15日（金）、16日（土）に豊島体育館で開催する「とよなか市民環境展 2019」について、会場周辺以外での広報手段の1つとして、開催前の期間にセンターで展示を行い、環境展について広くPRすることを計画に盛り込んでいました。開催前の期間は別の展示を実施していたため、環境展の展示の実施には至りませんでした。チラシの配布等により環境展の開催を呼びかけたところ、当日の会場でもセンターの利用者を多く見かけました。

③関西大学との連携

関西大学が健康と環境の好循環の政策をめざして実施する研究の一環として、2019年度から関西大学が環境省の研究費を獲得されたことを受けて、豊中市内で当団体と協働して夏のライフスタイル調査やワークショップを実施しました。センターでは、ライフスタイル調査に参加する市民向けの説明会・報告会・ワークショップの会場として利用しました。

（3）部会・プロジェクト活動

①わいわいクラブ【生活部会】

地球温暖化防止や省資源・循環型社会の推進の一環として、市民が気軽に参加・体験できる場を「わいわいクラブ」として開催しています。2019年度は、「ゴキブリ駆除剤のホウ酸だんご作り」「ごみ分別ゲーム」などを行いました。

②学習会【事業部会】

事業者を主な対象とし、「ビジネスで貢献するSDGs」と題した学習会を開催しました。

③写真で元気【企画屋本舗】

まちや自然といった環境に関する写真を撮り、各自のアルバム作りを通して、自分自身や環境について見つめ・発見していく場作りの講座を3回企画しましたが、参加者が集まらなかったことや、新型コロナウイルス感染症の影響によりいずれも中止となったため、開催に至りませんでした。

④生ごみ堆肥化事業の20周年展示【花と緑のネットワーク】

1999年にとよなか市民環境会議にて、生ごみ堆肥化実験プロジェクトを開始してから20年が経過したことを受けて、資源循環に関するパネル展（3日間）を行いました。展示期間中には、とよっぴーで育てた野菜の販売、20年を記念した集い、資源循環に関する講習会などをあわせて実施しました。

⑤ペットボトルでかんたん my 米づくり【花と緑のネットワーク】

6月頃に一定期間を設けて、センターの来場者へ参加を募り、その場で希望者に材料を渡して、自宅でペットボトルを使った米づくりを体験してもらいます。参加者は各自で10月頃にできた実を外し、もみをすり鉢でこすって玄米にし、炊飯器で白米と一緒に炊いて、試食することができます。

⑤「市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業」の実施【地球温暖化対策プロジェクト】

豊中市からの委託事業「豊中市市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業」の一部について、センターを利用して実施しました。2019年度は、省エネ相談会よりも詳しく省エネを考えたい方向けの講座「エネカフェ」（2回）と、エコドライブキャンペーンの一環の講座「エコドライブ講習会」（2回）を開催しました。また、SNSを活用した企画「マチカネくん駅伝」に関する展示や、企画の進捗状況を紹介し、企画の広報につなげました。

7. 自主事業の経費の収支状況

2019 年度活動決算書（自主事業分のみ）

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

（単位：円）

経常収益		
科目	金額	備考
受取寄付金	5,622	
受取助成金	0	
受取負担金	41,000	該当分のみ
受託事業	60,000	該当分のみ
事業収益	196,771	販売収入・参加費等
雑収入	0	
堆肥頒布受任	102,200	
経常収益計	405,593	
経常費用		
科目	金額	備考
外注費	0	
備品費	0	
図書費	0	
印刷費	29,620	
通信運搬費	1,700	
消耗品費	6,387	
旅費交通費	56,480	
諸謝金	115,000	
保険料	0	
賃借料	0	
租税公課	4,806	自主事業該当分の消費税等
雑費	66,128	
堆肥頒布受任	93,816	
経常費用計	373,937	
差引	31,656	